
ごあいさつ

東京大学東洋文化研究所は、主として人文学や社会科学の方法を用いて、アジアと世界の過去・現在・未来を総合的に研究し理解しようとする研究者のための拠点です。人文学や社会科学の方法を縦横に使いこなし、複数のアプローチを融合させた独創的な方法によって、アジアと世界の国々や諸地域のさまざまな側面についての信頼に足る情報を研究成果として発信することが、研究所員に課された第一の使命です。この使命を果たすために、研究所では多彩な研究活動が精力的に展開されています。

良質の研究を生み出すためには、古今東西の図書や文献、資料を十分に参照することが必要です。本研究所には、その70年に及ぶ歴史の中で収集・蓄積された70万冊に近い蔵書があり、アジアに関する有数のコレクションとして、内外の多くの研究者に活用されています。これらの貴重な書籍や資料を大切に保存し次世代に引き継ぐとともに、その規模と内容の拡充を図ることも、本研究所の大事な使命です。

東京大学の中で研究所が果たすべきもっとも重要な責務が「研究」であることは確かです。しかし、所員は研究だけを行っているわけではありません。ほとんどのスタッフが各自の関係する大学院で授業を担当し、大学院生の指導にあたっています。また、日本学術振興会特別研究員、諸外国のポストドクや博士課程学生など多くの若手研究者を受け入れ、優秀なアジア研究の専門家の育成に努めています。「教育」もまた、東洋文化研究所を語る際に無視できないポイントであることを強調しておきたいと思いません。

東洋文化研究所は、2010年からその英文名称を Institute for Advanced Studies on Asia に変更しました。また、2011年4月には、新しい研究組織として、「新世代アジア研究部門」を設置しました。いずれも、スピーディーでダイナミックな現代世界の動きに対応するために採られた施策です。Advanced Studies on Asia とは、さまざまな学問的背景を持った世界各地の研究者が集まり、それぞれの学問分野の枠を超えて自由に情報や意見を交換し、そこから各自が新たな研究方法を生み出して、現代アジアと世界を深く理解することを目指す学問研究のスタイルのことです。新世代アジア研究部門は、このスタイルを実現するための強力な拠点となるはずです。

日本におけるアジア研究の拠点から世界における日本・アジアと世界の研究拠点へ、東洋文化研究所は、東京大学における文系の高等研究所を目指してさらに前進を続けます。ご期待下さい。

所 長 羽 田 正

東京大学
東洋文化研究所



所長
挨拶

所 長
羽 田
正

研究部門

本研究所は 1941 年 11 月 26 日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設されました。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足しました。1949 年、新たに 3 部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の 6 部門に再編成しました。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかりました。

ついで 1951 年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられました。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた 8 部門に再編成しました。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960 年には南アジア政治・経済部門、1964 年には東北アジア部門、1968 年には西アジア歴史・文化部門、1973 年には東南アジア経済・社会部門、1978 年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13 部門を擁するにいたりました。

さらに、アジア地域全体が世界のなかでしめる重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となりました。そこで、1981 年に新しい構想にもとづく大部門制を採用し、それまでの 13 部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の 4 部門に統合して再出発し、2011 年からは、これに新世代アジア部門が加わって、今日にいたっています。

附属 東洋学研究 情報センター

1999 年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という 2 つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設されました。1966 年の設立以来東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれています。また、センターの新設に伴い、絵画・考古資料を対象とする造形資料学分野が設けられ、さらに 2009 年度からアジアの社会調査資料を対象とするアジア社会・情報分野が増設されました。2009 年 6 月には、本センターが文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、2010 年度からは全国の関連研究者コミュニティに対してより開かれたセンターとしての活動を開始しました。

建 物

創立以来 23 年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままでしたが、1967 年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5 階以上を本研究所が使用することになりました。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などにもとない、狭隘な施設の改善、とくに書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983 年にいって総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになりました。これにもとなって全面的に改修工事を行い、1984 年 3 月に工事が完成しました。本研究所の建物は総面積 6,577 平方メートル、地下 1 階より地上 8 階までの 9 層からなります。

2006 年 2 月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年 7 月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007 年 8 月から耐震補強・改修工事を開始し、2008 年 3 月に工事は完了しました。

歴代受賞者

歴代所長

文化勲章・文化功労者・学士院賞を受賞した本研究所の教員は次の通りです。

文化勲章

江上 波夫	1991年
山本 達郎	1998年
中根 千枝	2001年

文化功労者

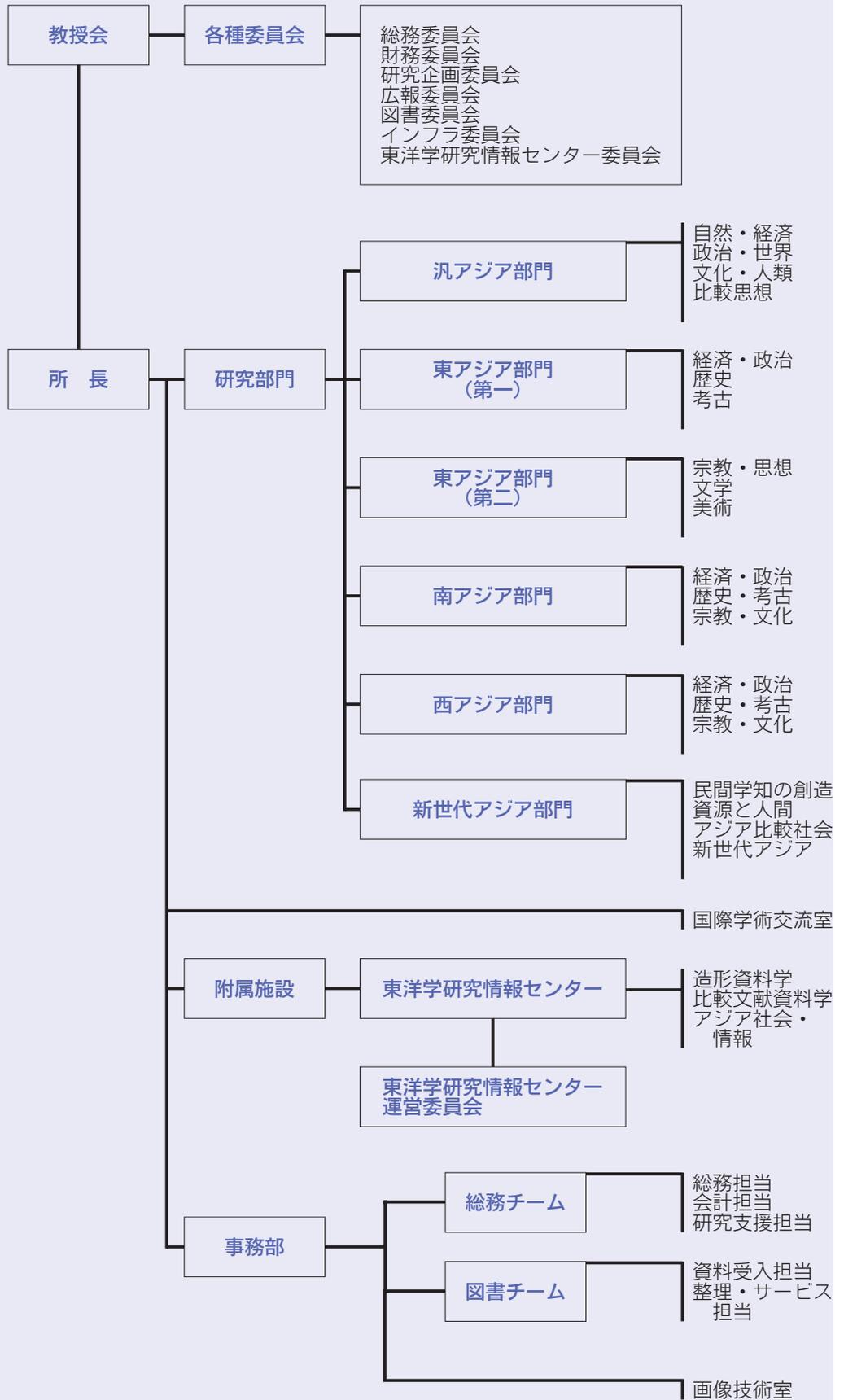
辻 直四郎 (併)	1978年
江上 波夫	1983年
山本 達郎 (併)	1986年
川野 重任	1993年
中根 千枝	1993年
板垣 雄三	2003年
斯波 義信	2006年

学士院賞

仁井田 陞	1934年
宇野 圓空	1942年
山本 達郎 (併)	1952年
周藤 吉之	1956年
福島 正夫	1963年
鎌田 茂雄	1976年
荒 松雄	1978年
池田 温	1983年
鈴木 敬	1985年
田仲 一成	1993年

桑田 芳蔵	1941. 11. 26—43. 3. 31
宇野 圓空	1943. 4. 1—46. 10. 5
戸田 貞三	1946. 10. 6—47. 9. 30
辻 直四郎	1947. 10. 1—54. 3. 31
仁井田 陞	1954. 4. 1—58. 7. 10
飯塚 浩二	1958. 7. 11—60. 7. 9
結城 令聞	1960. 7. 10—62. 7. 9
江上 波夫	1962. 7. 10—64. 7. 9
飯塚 浩二	1964. 7. 10—65. 2. 28
小口 偉一	1965. 3. 1—66. 3. 31
川野 重任	1966. 4. 1—68. 3. 31
小口 偉一	1968. 4. 1—70. 3. 31
泉 靖一	1970. 4. 1—70. 11. 15
川野 重任 (事務取扱)	1970. 11. 16—70. 12. 17
鈴木 敬	1970. 12. 18—72. 3. 31
荒 松雄	1972. 4. 1—73. 3. 31
窪 徳忠	1973. 4. 1—74. 3. 31
佐伯 有一	1974. 4. 1—76. 3. 31
大野 盛雄	1976. 4. 1—78. 3. 31
深井 晋司	1978. 4. 1—80. 3. 31
中根 千枝	1980. 4. 1—82. 3. 31
大野 盛雄	1982. 4. 1—84. 3. 31
尾上 兼英	1984. 4. 1—86. 3. 31
山崎 利男	1986. 4. 1—88. 3. 31
斯波 義信	1988. 4. 1—90. 3. 31
池田 温	1990. 4. 1—92. 3. 31
松谷 敏雄	1992. 4. 1—94. 3. 31
後藤 明	1994. 4. 1—96. 3. 31
濱下 武志	1996. 4. 1—98. 3. 31
原 洋之介	1998. 4. 1—2002. 3. 31
田中 明彦	2002. 4. 1—2006. 3. 31
関本 照夫	2006. 4. 1—2009. 3. 31
羽田 正	2009. 4. 1—現在

組織構成図



研究活動一覽

東洋文化研究所では、各所員が独自の研究を進めるとともに、所内での共同研究や所外の研究者との研究協力を積極的に行い、次のようなさまざまな形態の研究活動を推進しています。

A 部門研究

所内の汎アジア、東アジア（第一）、東アジア（第二）、南アジア、西アジア、新世代アジアの各研究部門と附属東洋学研究情報センターでは、それぞれの課題を掲げ、地域的・学際的な研究を共同して行っています。

B 個人研究

所員は個々の専門地域・分野において最先端の研究を行っており、その業績は国際的にも高く評価されています。

C 班研究

各専門分野の研究を推進し所外の研究者との交流を深めるため、所員を主任とする班研究会が特定のテーマごとに数多く設置されています。

D 外部資金による研究

所員は文部科学省科学研究費補助金やさまざまな外部の研究助成・奨学金に積極的に出願しており、多くが採択されて重要な成果を上げています。

「21世紀アジアの研究」プログラムについて

2006年から発足した所内「21世紀アジアの研究プログラム」は、2010年度をもって終了いたしました。

この間の研究成果についての報告書が、それぞれのプログラムから刊行されています。

汎アジア部門

「アジア諸地域における社会・文化の変容過程」

汎アジア部門は、アジアを広く対象とし、経済学・政治学・人文地理学・文化人類学・比較思想といった社会科学・人文科学の諸分野における研究を深めるだけでなく、最先端の学際的な研究をも展開しています。同時にこの部門ではアジアのアジア研究者とのネットワーキングにも力を注ぎ、アジア研究の地域的ハブとしての機能を担おうとしています。日本も重要な研究対象としています。

自然・経済研究領域 教授 松井 健 教授 池本 幸生

講師 卯田 宗平 (11年1月から) (兼任)

政治・世界研究領域 教授 田中 明彦 (兼任) 准教授 松田 康博

特任助教 安田 佳代

文化・人類研究領域 准教授 名和 克郎

東アジア部門
(第一)

「東アジアにおける国家権力と社会経済構造」

東アジア第一部門は、中国、朝鮮、日本、ときにはベトナムを含む東アジア世界を総体として取り上げ、社会科学的方法によって過去から現在に至る動態を把握することを目標とします。この研究では、とくに東アジア第二部門と協力して、学際的な地域研究による生きた全体像を目指すことは言うまでもありません。

経済・政治研究領域 教授 高見澤 磨 教授 安富 歩

歴史研究領域 教授 黒田 明伸 教授 真鍋 祐子

考古研究領域 教授 平勢 隆郎 准教授 小寺 敦

東アジア部門
(第二)

「東アジアにおける庶民文化の形成と展開」

東アジア第二部門は、中国を中心とする東アジア地域の思想、宗教、文学、美術を研究対象とする部門です。「庶民文化の形成と展開」を課題とした部門研究においては、各研究分野で独自の検討をするとともに、共同してその解明を目指しています。

宗教・思想研究領域 教授 丘山 新 (兼任)

准教授 ブルチャー ミヒャエル フランク (兼任)

文学研究領域 教授 尾崎 文昭 教授 大木 康

美術研究領域 教授 小川 裕充 准教授 板倉 聖哲

南アジア部門

「環ベンガル湾地域における文明・文化の交錯」

南アジア部門は、インド亜大陸を中心とする狭義の南アジア地域とともに東南アジア地域をも研究の対象にしています。この地域は多様な言語と文化をもつ人びとが複雑な社会を形成しているうえ、大部分の国々が欧米の植民地支配を経験し第二次大戦後に独立を勝ち取ったという歴史的経験をもっており、こうした事情の理解なしには現状の把握も不可能です。このため、本部門は政治・経済・社会・文化などの広範な分野にわたってこの地域の過去と現在を探求することを共通の課題としています。

経済・政治研究領域 教授 加納 啓良 教授 高橋 昭雄

歴史・考古研究領域 准教授 古井 龍介

宗教・文化研究領域 教授 永ノ尾信悟 准教授 馬場 紀寿

西アジア部門

「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」

西アジア部門は、アフガニスタンからトルコ・エジプトまでの地域、いわゆる中東を研究対象とし、あわせて内陸アジアをも対象のなかに包含します。この広大な地域の政治、経済、文化、社会を、学際的研究によって総合的に理解し、その特質を解明することが本部門の目的です。そのために各自が独自の立場から個人研究を行うとともに、「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」を共通の研究題目とする共同研究が実施されています。

経済・政治研究領域 教授 鈴木 董 教授 長澤 榮治

歴史・考古研究領域 教授 羽田 正 教授 榎屋 友子 助教 辻 明日香

宗教・文化研究領域 教授 鎌田 繁 准教授 森本 一夫（兼任）

新世代アジア部門

「アジアに関する新たな研究領域の開拓」

新世代アジア研究部門は、アジア研究における新たな研究対象、研究方法、研究分野を切り拓き、アジア研究の新たなビジョンを社会に向けて提示します。それは、従来の優れた基礎研究を継承しつつ、未来に向けた新しい研究を生み出し、これを社会へ積極的に発信する試みでもあります。

民間学知の創造 教授 菅 豊

資源と人間 准教授 佐藤 仁

アジア比較社会 教授 園田 茂人（兼任）

東洋学研究情報センター

「アジア資料学の構築」

（東洋学研究情報センターの項、18ページをご参照ください。）

B 所員の研究テーマ (2011年度)

汎アジア部門

いけちと ゆきお
池本 幸生

アジアにおける貧困と不平等

たなか あきひこ
田中 明彦 (兼任)

東アジアをめぐる主要国間の国際政治

まつい たけし
松井 健

文化としての自然

やすだ かよ
安田 佳代

東アジアにおける国際衛生行政

うだ しゅうへい
卯田 宗平 (兼任)

東アジアの環境変化と生業・健康転換

なわ かつお
名和 克郎

ネパールおよび南アジアの集団間関係

まつだ やすひろ
松田 康博

中国と台湾の政治・外交研究, 中台関係論

東アジア部門 (第一)

くろだ あきのぶ
黒田 明伸

東アジア経済史

たかみざわ おさむ
高見澤 磨

現代中国の法と社会

まなべ ゆうこ
真鍋 祐子

朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム

こてら あつし
小寺 敦

中国古代家族史

ひらせ たかお
平勢 隆郎

中国古代領域国家の形成

やすとみ あゆむ
安富 歩

魂の脱植民地化

東アジア部門 (第二)

いたくら まさあき
板倉 聖哲

宋元文人の絵画表象

おかやま はじめ
丘山 新 (兼任)

中国における仏教経典の受容

おさき ふみあき
尾崎 文昭

魯迅・周作人の文学と思想

おおき やすし
大木 康

中国明清時代の文学

おかわ ひろみつ
小川 裕充

東アジア美術史

ブルチャー ミハヤエル フランク (兼任)

東アジアの近代思想と政治概念史

南アジア部門

えいの お しんご
永ノ尾 信悟

古代インド社会と祭式

たかはし あきお
高橋 昭雄

東南アジアの農村社会

ふるい りょうすけ
古井 龍介

南アジア古代・中世初期史

かのう ひろよし
加納 啓良

東南アジアの現代経済史

ばば のりひさ
馬場 紀寿

上座部仏教の思想と歴史

西アジア部門

かまだ しげる
鎌田 繁

イスラーム宗教思想の構造と展開

すずき ただし
鈴木 董

オスマン帝国の政治社会史的研究

つじ あすか
辻 明日香

イスラーム政権下におけるマイノリティー

ながさわ えいじ
長澤 榮治

近代アラブ社会経済史

はねだ まさし
羽田 正

世界史の再構築

ますや ともこ
柵屋 友子

イスラーム地域における美術と社会

もりもと かずお
森本 一夫 (兼任)

ムスリム諸社会の社会史的研究

新世代アジア部門

さとう じん
佐藤 仁

資源ガバナンス・開発研究

すが ゆたか
菅 豊

東アジアの自然と文化

そのだ しげと
園田 茂人 (兼任)

「動くアジア」の比較社会学

国際学術交流室

おおの きみか
大野 公賀

豊子愷・李叔同 (弘一法師) 文学と芸術

チャード ロバート ローレンス

中国学・東アジア文化史

東洋学研究情報センター

いたくら まさあき
板倉 聖哲 (兼任)

東アジア美術造形資料の研究

おかやま はじめ
丘山 新

東アジア文献資料の研究

そのだ しげと
園田 茂人 (兼任)

アジア地域を対象にした比較社会的研究

なわ かつお
名和 克郎 (兼任)

ヒマラヤ地域の文献・口承

ひろた てるなお
廣田 輝直

東洋文化研究情報 DB

ますや ともこ
柵屋 友子 (兼任)

イスラーム地域造形資料の研究

まつだ やすひろ
松田 康博 (兼任)

中国と台湾の政治・外交研究, 中台関係論

南アジア北部における人類学的研究の再検討

主任：名和克郎

- ※上杉妙子 ※小西公大 ※小牧幸代 ※佐藤齊華
- ※田辺明生 ※外川昌彦 ※藤倉達郎
- ※マハラジャン, ケシャブ・ラル ※三尾稔 ※南真木人
- ※森本泉 ※安野早己

東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治

主任：田中明彦

- 山影進 ※浅野亮 ○古田元夫 ※伊豆見元 ※瀬島誠
- 谷垣真理子 ※今村弘子 ○原田至郎 ○保城広至
- ※玄大松 ※山本和也

中国出土文字史料とその歴史的背景

主任：平勢隆郎

- ※竹内康浩 ※呂静 ※原宗子 ※影山輝国 ※鶴間和幸
- ※工藤元男 ※谷豊信 ※飯尾秀幸 ※吉開将人 ※熊谷滋三
- ※近藤浩之 ※甘懐真 ※池田知正 ※徐蘇斌

漢籍版本と分類の研究

主任：丘山新

- 高見澤磨 黒田明伸 平勢隆郎 ※橋本秀美 尾崎文昭
- 小川裕充 板倉聖哲 大木康 ○川原秀城 ○小島毅
- 大西克也 ○村田雄二郎 ○黒住真 ※陳捷 ※梶浦晋
- ※黄仕忠 ※覃影

中国禅宗語録の研究

主任：丘山新

- ※橋本秀美 ※小川隆 ※衣川賢次 ※末木文美士 ※前川亨
- ※喬志航 ※土屋太祐 ※泉経武 ※呉真

世紀交替期中国における文化転形

主任：尾崎文昭

- 大木康 丘山新 高見澤磨 ○大西克也 ※坂元ひろ子
- ※白水紀子 ※砂山幸雄 ○戸倉英美 ○村田雄二郎
- ※茂木敏夫 ○吉澤誠一郎

中国一九三〇年代の文学

主任：尾崎文昭

- 伊藤徳也 ○刈間文俊 ○代田智明 ○藤井省三
- ※松岡俊裕 ※山内文登

中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法研究の総合の試み

主任：高見澤磨

- 松原健太郎 ※赤城美恵子 ※鹿嶋瑛 ※加藤雄三
- ※川村康 ※陶安あんど ※石岡浩 ※鈴木秀光 ※高遠拓児
- ※中村正人 ※娜鶴雅 ※西英昭 ※李英美 ※森川伸吾

現存する中国絵画の包括的再検討

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※嶋田英誠 ※宮崎法子 ※藤田伸也
- ※救仁郷秀明 ※井手誠之輔 ※西上実 ※伊藤大輔
- ※増記隆介 ※竹浪遠

アジア美術とアイデンティティー

主任：小川裕充

- 板倉聖哲 ※西上実 ※井手誠之輔 ※朴亨國 ※後小路雅弘
- ※浅井和春 ※大田省一 ※秋山光文 羽田正 榎屋友子
- ※田中秀隆

ブラフマニズムと仏教の関係

主任：永ノ尾信悟

- ※青木健 ※石井裕 ※片岡啓 ○斎藤明 ※榊和良
- ※中才恩 ※杉木恒彦 ※鈴木健太 ※鈴木隆泰 ※高島淳
- ※田中公明 ※種村隆元 ※永崎研宣 馬場紀寿 ※引田弘道
- ※森雅秀 ※八尾史 ※横地優子

東南アジア近現代史像の再検討

主任：加納啓良

- ※浅見靖仁 ※土佐弘之 ○中西徹 ○藤原帰一 ※宮脇聡史
- ※高地薫 ○古田元夫 ※白石昌也 ※伊藤正子 ※岩月純一
- ※小泉順子 ○末廣昭 ※藪下ネーナパー ※水野明日香
- 高橋昭雄

ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任：高橋昭雄

- ※根本敬 ※工藤年博 ※谷祐可子 ※池田一人

アジア都市比較の課題と方法

主任：鈴木董

- ※陣内秀信 松井健 ※妹尾達彦 大木康 ※清水展 羽田正
- ※林佳世子 ※大田省一 ※黒木英充 ○本村凌二
- ※小泉龍人

比較イスラム制度史の研究

主任：鈴木董

- ※三浦徹 ※私市正年 ※林佳世子 羽田正

都市社会と宗教施設

主任：羽田正

- 藤井恵介 ※私市正年 ○小松久男 ※林佳世子 ※三浦徹
- ※深見奈緒子 ※山中由里子 森本一夫 榎屋友子
- ※大田省一

中東の社会変容と思想運動

主任：長澤榮治

- ※池田美佐子 ※鈴木恵美 ※臼杵陽 ※岡野内正 ※加藤博
- ※栗田禎子 ※福田安志 ※松本弘 ※堀井聡江

イスラム史料の総合的研究

主任：鈴木董

- ※八尾師誠 羽田正 ※林佳世子 ※黒木英充 ※堀井優
- ※加藤博 ※私市正年 ※三沢伸生 ※秋葉淳

イスラーム思想の文献学的研究

主任：鎌田繁

※小林春夫 ○杉田英明 ○竹下政孝 ※東長靖 ※中田考
※野元晋 ※藤井守男 ※菊地達也 ○吉田京子 ○高橋英海
※仁子寿晴

西アジア文献資料学の課題と方法

主任：鈴木董

長澤榮治 羽田正 鎌田繁 永ノ尾信悟

仏教美術に関する資料収集と比較研究

主任：板倉聖哲

※内藤榮 ※伊東哲夫 ※稲本泰生 ※榎本渉 ※高橋範子
※高橋照彦 丘山新 ※井手誠之輔 ※安田治樹

アジア・アフリカの貧困と不平等の再検討

主任：池本幸生

※松井範惇 ※後藤玲子 馬場紀寿 ※野上裕生 佐藤仁
※片岡洋子 ※田口さつき ※坪井ひろみ ※吉野馨子
※峯陽一

東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

主任：菅豊

※中村淳 ※南根祐 ※中野泰 ○岩本通弥 ※周星
※田村和彦 ※門田岳久 ※陳志勤 ※小長谷英代
※平山美雪

特産品とその消費の変容から見た現代アジア経済史

主任：加納啓良

※三本木一夫 ※久米高史 ※大澤篤 ※小座野八光
池本幸生 ※山本博史 ※宮田敏之 高橋昭雄 ※水野明日香

サブシステム研究の可能性

主任：松井健

永ノ尾信悟 菅豊 ※飯田卓 ※遠藤仁 ※太田至
※大村敬一 ※大山修一 ※落合雪野 ※河合香史
※栗本英世 ※窪田幸子 ※小磯学 ※小長谷有紀
※末原達郎 ※杉島敬志 ※杉藤重信 ※須藤健一 ※曾我亨
※高倉浩樹 ※野林厚志 ※松田素二 ※家中茂

ペルシア語文化圏研究

主任：森本一夫

※近藤信彰 ※菅原睦 ※真下裕之 ※前田弘毅 ※山口昭彦
※山岸智子 ※森山央朗

アジアの食文化と開発と地域

主任：池本幸生

羽田正 ○梅崎昌裕 ※玄大松 菅豊 ※阿部健一
○渡辺知保 松井健 名和克郎 ※辻村英之

イスラーム美術の諸相

主任：栞屋友子

※深見奈緒子 ※真道洋子 ※小林一枝 ※阿部克彦
※山下王世 ※鎌田由美子

魂の脱植民地化～共生と創発の歴史的ダイナミクス～

主任：安富歩

辻明日香 ※深尾葉子 ※富田啓一 ※井上正夫 ※李昌平
※翟学偉 ※富樫智 ※山本伸裕

比較歴史学の課題と方法

主任：羽田正

※伊藤幸司 ※藤田明良 ○村井章介 ※森平雅彦 ※高津孝
※中島菜草 ※四日市康博 ○深沢克己

オスマン帝国史の諸問題

主任：鈴木董

※高松洋一 ※小笠原弘幸 ※堀井優 ※澤井一彰
※松尾有里子 ※齋藤久美子 ※清水保尚 ※黛秋津
※秋葉淳 ※長谷部圭彦

中国古代文献の成立に関する多角的な研究

主任：小寺敦

○池澤優 ○大西克也 ※名和敏光 ※宮本徹 ※谷中信一

中台関係の総合的研究

主任：松田康博

※若林正文 ○高原明生 ※家永真幸 ※石川誠人 ※伊藤剛
※伊藤信悟 ※小笠原欣幸 ※佐藤幸人 ※福田円
※松本充豊 ※林成蔚

アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究

主任：名和克郎

○岩月純一 ※大川謙作 ○吉川雅之 ○渡邊日

テキストの生成と伝播

主任：大木康

※平田昌司 ※浅見洋二 ○齋藤希史 馬場紀寿

親鸞ルネサンス～親鸞で研究する学問の創出をめざして～

主任：安富歩

丘山新 ※阪上雅昭 ※水月昭道 ※山本伸裕 ※大平泰男

D 外部資金による研究 (2010年度)

文部科学省・日本学術振興会科学研究費による 研究調査

園田茂人

「台頭する中産階級とその政治的・社会的インパクト：
中印露比較研究」
新学術領域研究 2009～2011

佐藤 仁

「日本の被援助・開発経験の相互作用的研究——1950
年代を中心に」
新学術領域研究 2009～2011

小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形
成の研究——全アジアから全世界へ」
基盤研究(S) 2007～2011

羽田 正

「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」
基盤研究(S) 2009～2013

田中明彦

「東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程」
基盤研究(A) 2009～2011

安富 歩

「「共同体」概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学～
魂の脱植民地化の新しい展開～」
基盤研究(A) 2009～2011

高橋昭雄

「契約文書からみた英領植民期ビルマ（ミャンマー）
農村経済の研究」
基盤研究(B) 2007～2010

長澤榮治

「IT時代における現代アラビア語の言語社会学的研究」
基盤研究(B) 2009～2011

松井 健

「工芸の生産・流通・消費とグローバル化——
新しい「工芸の人類学」の構想」
基盤研究(B) 2009～2012

中里成章

「インド・パキスタン分離独立の農村的起源——ベン
ガルの場合——」
基盤研究(B) (海外) 2009～2011

園田茂人

「中国と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プ
ロセスに関する比較社会学的研究」
基盤研究(B) 2009～2012

菅 豊

「現代市民社会に対応する『公共民俗学』創成のため
の基礎研究」
基盤研究(B) 2010～2012

松田康博

「繁栄と自立のディレンマ—ポスト民主化台湾の国際
政治経済学—」
基盤研究(B) 2010～2012

黒田明伸

「取引の一時的・季節性そして空間性をもたらす貨幣
間の補完性についての国際共同研究」
基盤研究(B) 2010～2013

柳澤 悠

「独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期
変動との関連に注目して」
基盤研究(B) 2010～2012

名和克郎

「体制転換期ネパールにおける政治言語の流通と変容
に関する言語人類学的研究」
基盤研究(C) 2009～2011

大木 康

「明清の王朝交替と杜詩学」
基盤研究(C) 2010～2012

池本幸生

「貧困削減における社会的企業のグローバルな役割：
理論と実証」
基盤研究(C) 2010～2012

小寺 敦

「周代宗法制」の成立に関する研究」
若手研究(B) 2007～2010

古井龍介

「中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と
諸社会集団間の交渉」
若手研究(B) 2010～2013

辻明日香

「聖人伝史料によるマムルーク朝期コプト社会の研究」
若手研究(B) 2010～2012

馬場紀寿

「パーリ註釈文献と北伝資料の比較分析による部派仏典の伝承史的研究」
研究活動スタート支援 2010～2011

鵜飼敦子

「『日本的なるもの』の受容と創造」
研究活動スタート支援 2010～2011

その他の研究助成・奨学金**園田茂人**

旭硝子財団・ステップアップ助成 2009～2011

黒田明伸

トヨタ財団研究助成金 2010～2011

アジア・アフリカ学術基盤形成事業**園田茂人**

アジア比較社会研究のフロンティア 2010～2012

優秀若手研究者海外派遣事業**森本一夫**

預言者ムハンマド一族（サイイド/シャリーフ）の研究 2009～2010

古井龍介

古代・中世初期ベンガル碑文の研究：集成・批判的校訂・注釈 2010

日本関連在外資料調査研究事業**平勢隆郎**

近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究
2010～2015

- 松本忠雄氏旧蔵書：日中関係など 3,000 冊
- 雙紅堂文庫：長澤規矩也氏旧蔵書 明清戯曲小説類漢籍 3,150 冊
- 清野文庫：清野謙次氏旧蔵書 人類学・考古学関係洋書 750 冊
- 矢吹慶輝氏旧蔵書：マニ教文献，仏教遺跡など洋書 305 点
- 下中文庫：下中弥三郎氏寄贈 第二次大戦後出版された中国書 4,500 冊，洋書 130 冊，中国雑誌 10 冊
- 東京銀行調査部旧蔵資料：和漢書・資料類 18,000 点
- 仁井田文庫：仁井田陞氏旧蔵書 漢籍・中国書 5,000 冊，和書 2,200 冊，洋書 120 冊，清代公・私文書類 900 余点，碑文拓本 50 基
- 我妻文庫：我妻栄氏旧蔵書 アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
- 倉石文庫：倉石武四郎氏旧蔵書 漢籍 4,433 点，中国書 2,300 点，和書 3,300 点，その他 676 点
- 江上文庫：江上波夫氏旧蔵書 歴史学・民族学・考古学関係 洋書 2,550 点
- Daiber Collection I, II：Hans Daiber 氏収集 12～20 世紀初頭にいたるイスラーム宗教・思想・歴史関係 アラビア語写本 490 点
- 文淵閣四庫全書影印本：1,501 冊
- オランダ植民地省公文書（1850～1921）索引およびジャワ官報（1928～1939）：（マイクロフィッシュ）
- 乾隆版大蔵経：清代に刊行された木版大蔵経：1,657 部
- Ouseley Collection：Gore Ouseley 卿旧蔵書 17～19 世紀西欧人のインド・中近東旅行記，ペルシア文学 60 点 106 冊
- Müteferrika Collection：オスマン朝時代の初期刊本 17 点
- 南アジア伝道教団資料集成：18～20 世紀の教団の年報，議事録，報告書など（マイクロフィッシュ）
- Indonesian Monographs 1945～1973：独立後インドネシア社会科学関係（マイクロフィッシュ）
- 今堀文庫：今堀誠二氏旧蔵書 近現代中国社会史・華僑関係資料漢籍 300 点，中国書 2,000 点，和洋書 260 点，文書 500 点
- 東アジア宗族社会史関係資料 朝鮮族譜集成 494 点 中国華南宗族社会史資料，南洋華僑・華人関係資料 2,263 点
- 中国西北文献叢書：中国西北地方の歴史・文学等基本文献
- オスマン語・トルコ語年鑑・定期刊行物コレクション
- 西アジア関連写本集成：ミンガナ・コレクション，ロンドン大学東洋アフリカ研究所など所蔵のアラビア語写本（マイクロフィッシュ）
- 中国第一歴史档案馆清代档案資料：清朝公文書（マイクロフィルム）
- 夕嵐草堂文庫：前野直彬氏旧蔵書 明清小説類 漢籍 500 点 4,400 冊
- 伊藤文庫：伊藤義教氏旧蔵書 古代・中世イラン学関係 和・洋書 849 冊
- 安田文庫旧蔵『論語』コレクション：安田弘氏寄贈 正平版を含む論語 9 点を柱とする漢籍 11 点
- 上村文庫：上村勝彦氏旧蔵書 サンスクリット詩学・宗教・哲学 サンスクリット語 658 点
- タイ語文献コレクション：友杉孝氏旧蔵書を中心に構成されたタイ語文献
- 荒木文庫：荒木茂氏収集波斯関係洋書 938 点 1,112 冊
- 両紅軒文庫：伊藤漱平氏旧蔵書 漢籍・中国書・和書・洋書 2,246 冊
- 滝川勉文庫：滝川勉氏旧蔵書 和書・洋書 2,050 冊
- 山崎文庫：山崎利男氏旧蔵書 和書・洋書 489 冊

4 図書の利用 と保存

(1) 図書の利用状況

開架スペースには研究所刊行物、所員の著作、参考書、新着雑誌を配架し、他の蔵書はすべて書庫に配架しています。閲覧希望の図書資料はカウンターで出納します。蔵書は原則として貸出していません。

2009・2010年度開室日数・閲覧者数は次のとおりです。

	2009年度	2010年度*
開室日(日)	227	216
学内閲覧者(人)	2,260	2,176
学外閲覧者(人)	1,597	1,642

*3月11日の東日本大震災のため、3月14日から4月1日まで閉室しました。

(2) 貴重図書の保存・複製・閲覧

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものです。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任があります。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵しています(2011年3月現在)。古い書籍には既に破損していたり、劣化が進んでいるものもあります。

現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めています。ただし、この作業には多大の時間と費用とを要します。利用者の広い支援と協力をお願いします。

こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文映像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文を遠隔地からも利用していただけるようになりました(20~21ページ参照)。2007・2008年度には「雙紅堂文庫全文映像資料庫」も追加しました。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

なお本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても進められています。

また、図書室企画で2009、2010年度に「はじめての漢籍」講演会を開催し、2011年5月に講演記録集を刊行しました。



「はじめての漢籍その二」講演会
(2010年6月9日)

閲覧 一般図書・貴重書

どなたでも閲覧いただけますが、大学等研究機関に所属されていない方は、事前に所蔵図書資料閲覧申請書を出していただきます。

特別貴重書

原則として複製を利用していただきます（複製があるものに限りです）。研究・教育上原本の閲覧が特に必要な場合には、特別貴重書閲覧申請書をお出しください。審査のうえ、ご利用いただきます。保存状態などにより原本の閲覧ができない場合があります。

複写・掲載 複写

申請のうえ複写することができます。線装本貴重書・特別貴重書等は写真撮影により複製することができます。ネガフィルムは本研究所で保存します。なお、著作物の二分の一以上の複写は全頁複写扱いとなり、個人には認められません。

出版掲載許可申請・放映許可申請

複写した画像を出版物に掲載したり、ウェブサイト上で公開したりする場合には、あらかじめ出版掲載許可を申請願います。テレビ等で放映する場合も同様です。出版物の場合には1部、テレビ番組等の場合には録画記録媒体1部をご提供願います。なお、ウェブサイト上での公開の場合には、URLの通知および公開した部分の画像のハードコピー1部をご提供願います。



『紅樓夢』（程甲本 両紅軒文庫）

東洋学研究情報センター

センターの 目的・沿革

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設されました。現在のセンターは、旧センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、従来からの文献資料学分野、新設された造形資料学分野、さらには2009年度から増設されたアジア社会・情報分野の3分野から「アジア資料学」の確立を目指しています。また、2010年度に共同利用・共同研究拠点の認定を受け、国内外の大学及びその他の研究機関研究者との共同研究を進め、蓄積されてきたアジア諸資料の共同利用を推進しています。

研究活動

アジア研究の比較資料、造形、社会・情報からなる3分野の資料の収集と管理、及びこれらの資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施しています。以上に加えて、アジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを2003年度から開始しました。

センター長 羽田 正

副センター長 園田 茂人

造形資料学分野

美術作品・建築・考古資料・民俗学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を研究対象としています。

教授 柘屋 友子 (兼任)

准教授 板倉 聖哲 (兼任)

比較文献資料学分野

アジア諸言語で書かれた書籍・新聞雑誌・文書・碑文等の文字資料を研究対象としています。

教授 丘山 新

准教授 名和 克郎 (兼任)

准教授 廣田 輝直

アジア社会・情報分野

アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料やインタビュー記録などを研究対象としています。

教授 園田 茂人 (兼任)

准教授 松田 康博 (兼任)

センターの主要な活動

センターは、アジア学関連資料を収集・整理するデータベースプロジェクトに加えて、アジア研究に関する情報を組織化し発信するプロジェクトを進めています。

アジア研究情報 Gateway

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページです。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報・研究会開催情報のほか、「Asian Studies Watching」のコーナーには各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指しています。



アジア研究情報ゲートウェイホームページ（英文版）



エジプト カイロの書店情報

アジア・バロメーター

<https://www.asiabarometer.org/ja/index>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクト。2003年から2008年にかけてアジア全域で行われた世論調査を整理・蓄積し、これを利用した研究成果を刊行・発表しています。2009年度でようやく統一的なデータベースが完成し、各種プロジェクトを通じて成果の刊行が期待されています。

漢籍整理長期研修

全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施しています。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されています。1980年の開始以来、約79機関、220名以上が受講しました。

アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「アジア比較社会研究フロンティア」

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/aasplatform/main.html>

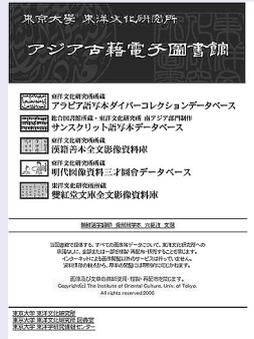
東洋学研究情報センターが2010年度に共同利用・共同研究拠点化することを契機に、2009年に新設されたアジア社会・情報分野を基盤にして、高麗大学（韓国）や中国社会科学院（中国）、中央研究院（台湾）、シンガポール国立大学（シンガポール）を相手国拠点機関に、従来データベースの欠如ゆえに本格的に展開されることの少なかったアジアを対象にした比較社会学的研究を進めていく3年プロジェクト「アジア比較社会研究のフロンティア」がスタートしました。同プロジェクトは、2010年度日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に採択され、現在進みつつある東アジア域内での社会学研究者の交流を加速させ、アジア社会学の可能性をめぐってさまざまな検討を加えることを目的としています。その具体的な研究成果やイベントなどは、逐次ホームページで紹介されていきます。

データベースプロジェクト

アジア古籍電子図書館

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp>

本研究は、文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため、世界に先駆けて資料をネットワーク上で試験的に公開することを決断しました。国内外の諸研究機関・図書館が、同様の試みを積極的にすすめ、将来的には、仮想空間上に国際的に連携した善本漢籍影像資料庫が構築されることを願っています。(16 ページ参照。)



アジア古籍電子図書館データベース



目録のページ

インド史跡調査団データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が行ったデリーを中心としたインドのイスラム建築の写真、図面、拓本などの資料をデジタル化し、都市別、建物別に公開しています。



インド史跡調査団

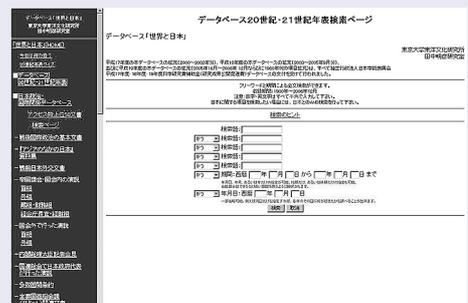
データベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html>

戦後日本の政治や国際関係についてのデータベースです。重要文献、演説、出来事、略語などを調べることができます。



データベース「世界と日本」



20世紀・21世紀年表検索ページ

ダイバーコレクションデータベース

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html

イスラーム史料写本を電子化した全内容をオリジナルカタログと併せて利用できます。

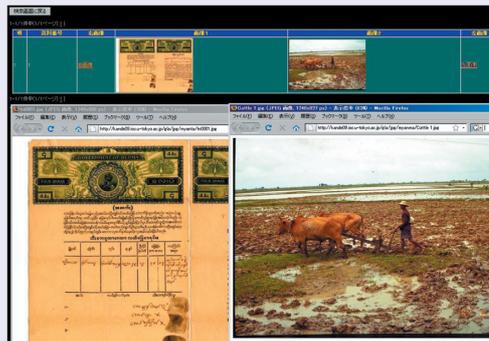


ダイバーコレクションデータベース

植民地期ビルマの土地関係資料データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hasbi/index.html>

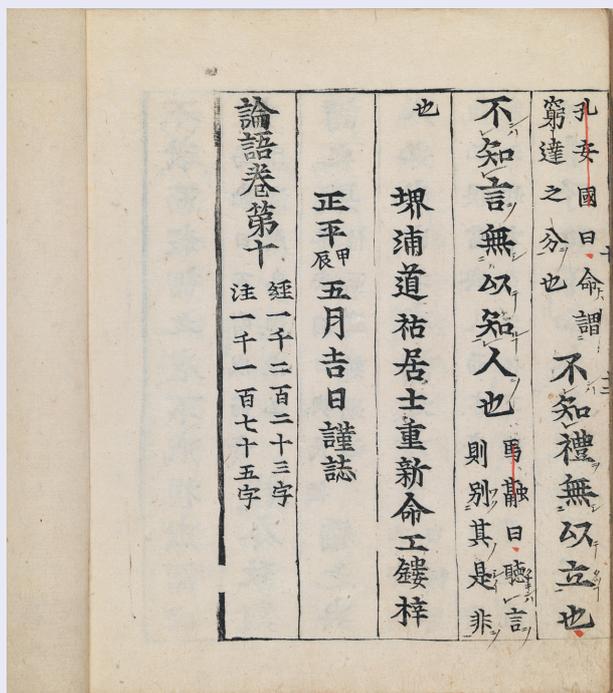
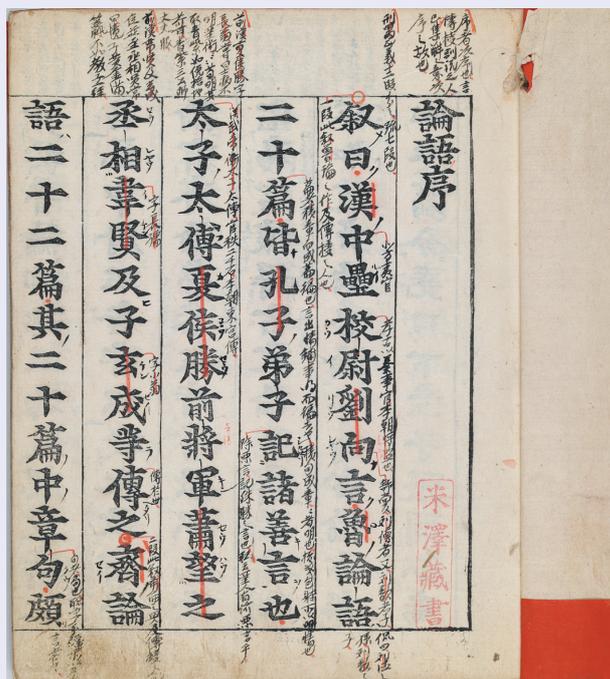
英領ビルマで作成された契約文書（7,000 枚以上）の一部の電子画像を現在の農村風景と連動させて公開しています。



植民地期ビルマの土地関係資料データベース

その他のプロジェクト

- 漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み
- アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト
- 台湾現代史貴重史料の収集・整理
- 古典一次資料上における知識 DB 構築支援の試み
- エジプト議会議事録データベースの改訂
- 日ネ協会旧蔵資料データベース構築
- 東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト
- アジア美術画像アーカイブ（第3期）
- アジアバロメーターによる先導的アジア比較研究の刊行事業
- 社会生態史学のためのデータベース構築
- イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイブ
- Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト（eDic）
- 江戸・明・古代プロジェクト



安田文庫旧蔵『論語』正平版 単跋早印本

日本で初めて印刷された儒教教典である、正平版『論語』は、『論語』の古い姿を伝える重要版本として、中国でも清代より今日に至るまで注目されてきた。写真は、安田善次郎氏の論語コレクションに含まれる翻刻正平本六種のうちの一つで、直江兼統ゆかりの名品。当コレクションは2004年に、安田弘氏により完全な形で当研究所へ寄贈された。「東京大学東洋文化研究所の漢籍善本」（平成19年9月10日発行）より転載

アジアのフィールド調査



参詣者に提供される食事

エジプト・アブーミーナー修道院にて。古来変わらぬ食事風景なのであろう。中世の文献にも登場する。
(撮影：辻明日香)



ダルチュラのバザールを歩くゾー（ヤクと牛の雑種）

極西部ネパールのヒマラヤ高地、ビヤンス地方の住民は、冬期には家畜と共にヒマラヤ南麓のダルチュラへと移動する
(撮影：名和克郎)



川辺のモスク

18世紀に建立されたイスラム寺院「ムスジッド・カドリヤー」（インドネシア、西カリマンタン州ポンティアナック市にて 撮影：加納啓良）



川面の家路

市場から帰宅の途中だろうか、マレー人農民の手こぎの舟がゆっくり川を遡って行った。（インドネシア、西カリマンタンにて 撮影：加納啓良）



屋下がりの渡し舟

赤道直下の日差しの下、のんびりと日傘を差した渡し舟が行く。（インドネシア、西カリマンタン州ポンティアナック市にて 撮影：加納啓良）



渡し舟に乗る子供たち

子供たちを乗せた手こぎの渡し舟とすれ違った。（インドネシア、西カリマンタン州ポンティアナック市にて 撮影：加納啓良）

東洋文化研究所刊行物

本研究所では、『東洋文化研究所研究報告』をはじめさまざまな形態の書籍、および雑誌『東洋文化研究所紀要』・『東洋文化』を刊行し、アジアに関するさまざまな学問の最新の研究成果と情報を発信しています。

1. 研究報告

『東洋文化研究所紀要別冊』

本研究所のスタッフの研究成果を収めたモノグラフ・シリーズです。通算の刊行数は64冊に達しています。2010年度の刊行は以下の通りです。

- 松井康『西南アジアの砂漠文化：生業のエートスから争乱の現在へ』（2011年3月）



その他

本研究所では、アジア研究のレファレンス叢書としての『東洋文化研究所叢刊』、さらに調査報告、蔵書目録、記念論集等、さまざまな出版物を随時刊行しています。

- 安富歩『黄土高原・緑を紡ぎだす人々：「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り』（2010年8月 東洋文化研究所叢刊 24）
- 松井健『グローバリゼーションと〈生きる世界〉：生業からみた人類学的現在』（2011年3月 東洋文化研究所叢刊 25）
- 『はじめての漢籍』東洋文化研究所図書室編（2011.5 汲古書院）
図書室が平成21、22年度に開催した講演会「はじめての漢籍」の講演内容をまとめて刊行しました。

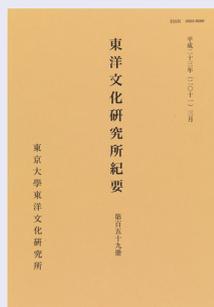


2. 雑誌

『東洋文化研究所紀要』

本研究所の紀要として、本研究所スタッフおよび研究協力者等による最新の学術的成果に基づく論文を掲載しています。年2回刊行。2010年度の刊行は以下のとおりです。（掲載内容については、41ページを参照。）

第158冊（2010年12月） 第159冊（2011年3月）



『東洋文化』

各号に特集を設け、本研究所のスタッフを中心としたさまざまな共同研究の成果を発信しています。年1回刊行。2010年度の刊行は以下のとおりです。（41～42ページを参照。）

- 第91号 特集 オスマン帝国史の諸問題（2011年3月）



International Journal of Asian Studies (IJAS)

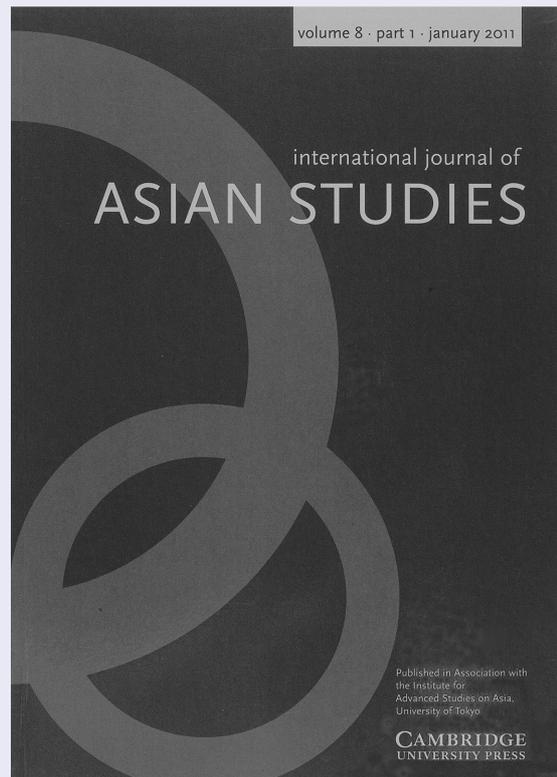
東洋文化研究所は、これまでのアジア研究のセンターとしての蓄積を踏まえ、*International Journal of Asian Studies* (IJAS) を刊行しています。

IJAS はアジアに関する主に人文・社会科学の研究成果を公刊する、国際的かつ学際的な英語による学術誌です。全世界から原稿を募集し、ケンブリッジ大学出版局から年2回刊行されます。

第1巻第1号は2004年1月に出版され、第8巻第1号(2011年1月)まで順調に刊行されています。(掲載内容については、42~43ページを参照。)

IJAS はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視しています。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たしていきます。

投稿規定等詳細につきましては、本研究所ホームページをご覧ください。



東洋学研究情報センター刊行物

センターは、『東洋学研究情報センター叢刊』およびニュースレター『明日の東洋学』を刊行しています。

『東洋学研究 情報センター 叢刊』

アジア研究のレファレンス叢書として定評のあった『東洋学文献センター叢刊』を引き継ぐ文献資料・造形資料目録シリーズです。国内外の大学図書館や東洋学研究室、研究機関等に寄贈しています。2010年度に刊行されたのは以下のとおりです。

第13輯
黄土地上来た日本人—中国山西省 三光政策村的记忆— 2011

ニュースレター 『明日の東洋 学』

センター事業の紹介、および国内外の研究者によるエッセイを掲載し、アジア学をめぐる最先端の話題を読みやすい形で提供しています。年2冊刊行で、2010年度にはNo. 24とNo. 25を刊行しました。バックナンバーはセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

公開講座・研究会等

本研究所では、多様な研究成果をさまざまな形で社会に還元するため、多彩な講座、研究会、セミナー、シンポジウムを公開で開催しています。最新の情報については、本研究所のホームページをご覧ください。

1. 公開講座

「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、研究所が長年蓄えてきた知的ストックをもとにして、研究所スタッフがわかりやすく解説する公開講座を毎年開催しています。2010年度は第10回「アジアを知れば世界が見える—アジアの奇」の統一テーマで2010年10月23日に実施しました。講師・講演タイトルは以下のとおりです。

- 菅 豊「中国の「奇」の文化誌」
板倉聖哲「奇想の源流—伊藤若冲が見た東アジア」
辻明日香「奇跡譚に見るエジプトのイスラーム教徒・キリスト教徒像」

これまでの公開講座統一テーマ一覧

- 第1回 アジアの藝 (2001年)
- 第2回 アジアの心 (2002年)
- 第3回 アジアの交 (2003年)
- 第4回 アジアの絆 (2004年)
- 第5回 アジアの富 (2005年)
- 第6回 アジアの暦 (2006年)
- 第7回 アジアの界 (2007年)
- 第8回 アジアの濤 (2008年)
- 第9回 アジアの習 (2009年)
- 第10回 アジアの奇 (2010年)



2. 定例研究会

本研究所の研究スタッフが、それぞれの研究成果を公開で発表します。年5回程度開催されます。昨年の発表タイトルは以下のとおりです。

2010年度

- 馬場 紀寿「律する者と詠う者—パリー仏典伝承史の構想—」
小川 裕充「五代・北宋絵画の透視遠近法—伝統中国絵画の規範」
平勢 隆郎「先秦時代の紀年矛盾解消と考古遺物」
田中 明彦「パワー論の再構築—言語行為論的基礎作業」
高橋 昭雄「国境を越える焼畑農民—ミャンマー・チン州の事例から—」



3. 東文研シンポジウム、東文研セミナー

本研究所では、最先端の研究成果を研究者間で広く共有し社会に向けて発信すべく、一般公開の「東文研シンポジウム」「東文研セミナー」を随時開催しています。2010年度には7回の東文研シンポジウム、23回の東文研セミナーを開催しました。

シンポジウム、セミナーの内容は、本研究所のプログラムや班研究の成果発表から、書評会に至るまで、バラエティに富んでいます。

次に2010年度の東文研シンポジウムの全タイトルを挙げます。

- 無形文化遺産保護運動と中国民俗学—その可能性と課題—
- 東アジア出土資料に関する今日的課題
- 文化財保護と石碑の世界
- 東アジアにおける「知」の流通
- アジアが見た日本美術
- 関野貞資料と墳墓の世界
- 南アジアにおける結婚観について

4. 東文研・ASNET共催セミナー

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（Network for Education and Research on Asia）」（通称ASNET）は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局の枠を越えて集まり、新しい教育や研究の可能性を探るために設立された東京大学の機構です。東洋文化研究所は、その構想・立ち上げ段階より事務局として深く関与し、現在も教員2名が兼任し、当研究所教員が副ネットワーク長をつとめるなど、大きな役割を果たしています。2010年の機構化を機に、2010年5月より、東洋文化研究所とASNETは共催で、主に研究所1階ロビーにて毎週木曜日にセミナーを開催しています。このセミナーは、東京大学に所属する、広くアジア研究に携わる若手研究者に、発表の場を提供することを目的とするものです。

次に2010年度の東文研・ASNET共催セミナーの全タイトルを紹介します。

- 持続可能な開発における有機農業の役割—日本と韓国を中心に—
- 日米同盟の制度化
- 健康と幸福と不平等—仏教の観点から—
- コーヒー豆の不平等—ベトナム・コーヒーの美味しい飲み方—
- 人間の健康の生態学—地域研究から—
- イスラームの女性観—男女の優劣をめぐる啓示解釈を中心に—
- エミール・ガレと『オリエント』
- 現代チベット研究と代替民族誌の問題
- 私が牛を買った理由—『実践』研究の自己へのインパクトに関する再帰的研究—
- 戦間期東アジアにおける国際衛生事業
- 溶け合うアラビア語詩の形—西アジアから西アフリカへと広がる広域知的連関網—
- Han people in Multi-Ethnic Yunnan Province, China
- オスマン立憲政の諸問題—比較史の観点から—
- 文学の逆遠近法—比較という方法の可能性—
- “Folk Music”が生み出される時—インド北西部における芸能集団をめぐる現状とモダニティの諸相—
- ファトフアリー・ハーンの母、妻、嫁—19世紀イランの地方有力者の『家』と女性—
- 法・正義概念の再審理にむけて—イスラーム言説の利用にかかる女性の日常実践を事例に—
- 環境史研究の可能性—生業技術からみるミクロな人間—環境系—
- 小産地の資源論—屋久島のかつお節製造業の消長と日本の天然資源政策—
- (ソウル)パゴダ公園の誕生及び変容とその都市史的意義
- 立達学園と開明書店—民国期知識人グループの一例として—
- ベトナム・フィールドワーク実習を終えて
- 政治と言葉—中江兆民《日本に哲学なし》再考—
- 意味への収斂とその外部—ランの葬送儀礼の変容をめぐる—
- お経を『聴く』—アジア各地の聖なる歌—
- 生業・移動のリズムの連動と物質文化の類似性から浮かび上がるインド洋西海域世界—新しい世界史へ向けて—
- 民族寄宿学校と『少数民族』現代ベトナムにおける地方のイニシアティブと人々の認識計27回（参考：<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>）

国際交流

国際交流は、アジア研究のセンターとしての研究所の活動の中核をなすものです。所員の外国出張はもとより、各国の大学との学術交流協定の締結、多くの外国人外研究者の受け入れなど、さまざまな形で交流を行ってきました。

1. 国際学術交流室

国際学術交流室は、本研究所の国際学術交流を推進するため2001年に新たに設置されました。本研究所が編集の中核を担い、ケンブリッジ大学出版会から2004年に刊行が開始された英文の国際学術雑誌 *International Journal of Asian Studies* の編集業務、協定を結んでいる研究機関との交流の推進などの業務を遂行し、本研究所の国際学術交流の中核としての役割を担っています。

2. 交流協定

本研究所は、東京大学と中国・復旦大学（1991-）およびシンガポール国立大学（2006-）との学術交流協定の担当部局として、両大学との交流の中核を担っています。

また本研究所は、香港大学アジア研究センター（1995-）、フランス高等研究院（2005-）、ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部（2005-）、カルカッタ大学歴史学部（2006-）、ベトナム・タイグエン大学経済経営学部（2006-）、台湾、中央研究院社会学研究所及び中央研究院人文社会科学研究センター、アジア太平洋地域研究センター（2010-）との間で部局間交流協定を結び、アジア各国の研究者との交流を積極的に推進してきました。

3. 復旦大学 文史研究院、 プリンストン大学 東アジア 学部・研 究所との 学術交流 協定

本研究所は、復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部・研究所との三者間で、学術交流コンソーシアム協定を締結しました。2010年6月7日に、復旦大学文史研究院の設立3周年を記念する会合が開催され、これに合わせて設定された協定調印式に本研究所の羽田正所長が出席し、文史研究院の葛兆光院長、プリンストン大学東アジア学部・研究所のベンジャミン・エルマン（Benjamin Elman）学部・研究所長とともに協定合意書に署名しました。

このコンソーシアムは、大学や研究機関間の一般的な学術交流協定よりもさらに踏み込み、三者間の密接な協力によってアジア研究を積極的に進めようとするもので、研究者の交流や定期的な学術会議の開催に加えて、共同出版や文史研究院での当研究所教員の講義や指導も視野の内に入れています。当研究所はこの協定の精神に則って着実に種々の事業を展開し、所員の研究成果を国際的な場で報告し、活発な意見交換を行う機会をこれまで以上に多く作ってゆきます。2011年度には、本学で第1回の三機関合同による国際シンポジウムが開催されます。



4. 外国出張

研究所スタッフの外国出張の件数は、2009年度138件、2010年度128件にのぼりました。

5. 海外との
図書
の寄贈・交換

海外の研究機関との間で、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』、『明日の東洋学』等の本研究所およびセンター発行の図書の寄贈並びに交換を行っています。寄贈・交換先は32か国、382機関に及んでいます。なお、国内については261機関と寄贈・交換を行っています。

6. 外国人研
究者等の
受け入れ**李 季樺**

(東京大学博士(文学) 2006年3月, 2008/10/1~2010/9/30)

彭 春凌

(北京大学大学院中文系博士課程, 2009/9/1~2010/9/30)

金 氣興

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2009/9/1~2011/8/31)

梁 宝衛

(復旦大学国際関係と公共事務博士課程, 2009/9/6~2010/9/5)

金 銀眞

(日本学術振興会外国人特別研究員(2009年9月30日まで, 他部局受入), 2009/10/1~2011/9/30)

Karl Gustafsson

(国際交流基金日本研究フェロー, 2009/11/13~2010/7/11)

呉 真

(南海大学専任講師, 2010/3/1~2012/2/28)

John R. McRae

(Indiana University Department of Religious Professor, 2010/3/15~2011/3/14)

Jan Nattier

(Indiana University Department of Religious Professor, 2010/3/15~2011/3/14)

黄 偉修

(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程卒業, 2010/3/19~2010/8/20)

馬 立誠

(自由作家, 学者, 2010/3/25~2010/4/24)

Yakov Rabkin

(モントリアル大学歴史学科教授, 2010/4/8~2010/5/2)

王 屏

(中国社会科学院研究所研究員, 2010/4/26~2010/8/16)

施 愛東

(中国社会科学院文学研究所副研究員, 2010/5/21~2010/11/30, 2011/4/11~2011/7/10)

龔 祥生

(国立政治大学東亜研究所博士候補, 2010/5/26~2010/12/25)

Beaud ep. Kobayashi Sylvie

(Anthropology University of Paris Ouest Nanterre Ph. D. Candidate, 2010/6/1~2012/5/31)

劉 禮紅

(ニューヨーク大学 Ph. D. Candidate, 2010/6/6~2010/7/25)

Selcuk Esenbel

(トルコ国立ボアジチ大学教授, 2010/6/15~2010/8/14)

何 思慎

(輔仁大学日本語文学系教授, 2010/6/28~2010/9/30)

吉村 亜弥子

(ウィスコンシン州立大学マディソン校 Ph. D. Candidate, 2010/6/30~2010/7/10)

馬 長山

(黒龍江大学法学院教授, 2010/7/1~2011/6/30)

Froese, Fabian Jintae

(高麗大学国際ビジネス学部助教, 2010/7/5~2011/2/28)

呂 紹理

(国立政治大学教授, 2010/7/7~2010/7/21)

頼 鈺勻

(精華大学人文社会科学学院歴史系博士課程生(Ph. D. Candidate), 2010/8/1~2011/2/1)

Rio, Aaron M

(コロンビア大学大学院美術史考古学博士課程, 2010/8/1~2012/7/31)

Richard Yan-Ki HO

(香港市立大学教授, 2010/8/17~2010/9/4)

Veg, Sebastian

(日本学術振興会外国人特別研究員(欧米短期), 2010/8/20~2011/1/9)

Winifred Chang

(History Department, University of California, Los Angeles Ph. D. Candidate, 2010/9/1~2011/8/31)

Nour Safaa

(カイロ大学文学部日本学科助講師, 2010/10/1~2011/11/30)

那仁朝格図

(内蒙古大学法学院教授, 2010/10/1~2011/9/30)

紀 萌

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2010/10/1~2012/9/30)

朱 莉麗

(復旦大学文史研究院助理研究員, 2010/10/20~2010/11/19)

朴 宣冷

(慶北浦項南區孝子洞浦項工科大学校人文社会学部教授, 2010/12/20~2011/2/28)

William C. Hedberg

(ハーバード大学東洋文化文明学部 Ph. D. Candidate, 2011/1/1~2011/7/10)

葉 彤

(生活・読書・新知三聯書店(北京)《読書》雑誌 編集員(編審), 2011/1/12~2011/3/11)

張 昌平

(武漢大学歴史学院教授, 2011/1/21~2011/1/28)

頼 毓芝

(中央研究院近代史研究所研究員, 2011/2/7~2011/2/20)

鄒 亜莎

(中国政法大学法学院博士候補, 2010/10/1~2011/3/17)

葛 兆光

(復旦大学文史研究院院長・歴史系教授, 2011/3/1~2011/3/8)

Hendrika Rengganis Wulandari Rimmelink

(University of Leiden Research PhD thesis/Scaliger Fellow, 2011/4/1~2012/3/31)

戴 振豊

(行政院・国家科学委員会補助赴国外従事博士後(海外ポスドク), 2011/4/1~2012/3/31)

陳 泳超

(北京大学中文系教授, 2011/4/1~2012/3/31)

Ursula Weiss

(C. G. Jung Institute Director of Studies, Accredited Analyst, 2011/4/15~2012/4/14)

牛 大勇

(北京大学歴史学部教授, 2011/6/10~2011/11/1)

教育・国内交流

1. 大学院教育

本研究所は以下の研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担しています。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化研究
		南アジア社会文化研究, 西アジア社会文化研究
法学政治学	総合法政	学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	産業社会史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学	国際協力学	地域間関連・交流
学際情報学府	学際情報学	

大学院における授業担当教員および指導学生数は以下のとおりです。

研究科	2009				2010			
	授業担当		指導学生		授業担当		指導学生	
		修士	博士	研究生		修士	博士	研究生
人文社会	32	14	26	3	17	10	23	
法学政治学	3	3	6	2	5	3	7	1
経済学	3		2		2			
総合文化	12	1	5		9	2	11	1
農学生命科学	1	1	2		2	2	3	
新領域創成科学	2	16	8		3	12	10	
学際情報学府	5	3	3		3	1	1	1
公共政策学	1							
(ASNET)	15				11			

2. 学部担当

本研究所では、多くの教員が様々な学部で3、4年生を対象とした講義を行っています。また、学部1、2年生を対象とした「全学自由研究ゼミナール」も担当しています。

学部	2009	2010
法	1	3
工	1	1
文	8	5
農	1	
経	1	
教養	10	7

3. 日本学術振興会特別研究員(PD)の受入れ

氏名	年度	研究課題
大川 謙作	2009-	抗争するチベット史：チベット社会論とその語りの歴史人類学的研究
嶺崎 寛子	2009-	エジプト社会のジェンダーと法識字：女性によるイスラーム言説の創出と利用
後藤 絵美	2009-	現代におけるムスリム女性のヴェールとイスラームの教義・思想に関する比較研究
吉田 真吾	2010-	日米同盟の制度化：その歴史的展開と因果メカニズム
苅谷 康太	2010-	西アフリカ・イスラーム地域研究：宗教的・知的連関網の探求および宗教思想の比較考察
内藤まりこ	2010-	七夕伝説をめぐる物語文化圏の研究
渡邊 祥子	2011	アルジェリア・ウラマー協会の思想と運動：ナショナリズムとの関係を中心に
高橋絵里香	2011-	フィンランドの家族介護とイエ・親族一福祉国家における老いの人類学的研究一
湯川 拓	2011-	ASEAN における規範の変容とその国内的要因
平位 匡	2011-	人間開発と幸福：人間開発の広範な概念把握へ向けた幸福の客観的考察
塚原 伸治	2011-	社会的・歴史的に拘束される商行為と経営戦略に関する現代民俗学的研究
諫早 庸一	2011-	13-14 世紀ペルシア語文化圏における時間計測の精密化について

4. 私学研修員の受入れ

久保田裕子	2010/10/1~2011/9/30	有機農業運動における消費者行動に関する研究
小野 浩	2011/4/1~2011/9/30	モンゴル時代発令文の文書的研究



(以上、東文研・ASNET 共催セミナーより)

5. 日本・アジアに関する教育研究ネットワークとの協力

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (Network for Education and Research on Asia)」(通称 ASNET) は、地域やディシプリンを問わず、広く日本・アジアと接点を持つ教育・研究に従事している研究者間のネットワークを構築し、研究者間の協力および交流を活性化し、日本を含むアジアに関わる新しい教育および研究を創出することにより、東京大学における教育・研究とアジア諸国との友好の発展に寄与することを目的として設立された東京大学の機構です。

東洋文化研究所では、2001年にこのネットワークが ASNET として設立された時から事務局を担い、2005年に国際連携本部 ASNET 推進室に改組された後も支援を行ってきました。そして2010年に東京大学の機構へと発展したのを契機に事務担当部局となり、副ネットワーク長と兼任教員として所員が参加しています。

本ネットワークが企画・運営する新しい大学院教育活動として「アジアにおける環境・開発・歴史」(2006年度)、「日本・アジア学の可能性」(2007年度)、「アジア研究のワールドワーク」(2006-2008年度)を開講しました。この活動は、2009年度から全学の研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムとして実施されており、研究所教員が毎年10科目以上を提供しています。

また2010年度からは東文研と ASNET の共催セミナーを木曜日の午後5時から東文研で毎週開催し、東洋文化研究所に所属する若手研究者等に研究発表の場を提供しています。また、アジア・アフリカ学術基盤形成事業(2011-2013年度)「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」では、日本・ベトナム・ラオス・カンボジア・タイの研究者の交流を行っていきます。

東洋文化研究所は、今後も ASNET との協力を発展させていきます。



研究科等横断型教育プログラム「日本・アジア学」平成23年度シラバス



東文研・ASNET 共催セミナー (毎週木曜日開催)

資料編

現教職員 (2011年7月1日現在)

所長

羽田 正

副所長

池本 幸生

汎アジア部門

松井 健 教授
池本 幸生 教授
卯田 宗平 特任講師(兼)
田中 明彦 教授(兼)
松田 康博 准教授
安田 佳代 特任助教
名和 克郎 准教授

西アジア部門

鈴木 董 教授
長澤 榮治 教授
羽田 正 教授
榊屋 友子 教授
辻 明日香 助教
鎌田 繁 教授
森本 一夫 准教授(兼)

特任研究員

大平 泰男
鶴飼 敦子
室井 康成
塩沢 裕仁
山本 伸裕

総務チーム(研究支援担当)

係長
押木 久雄
主任
秋山 真紀
事務補佐員
松本 律子

東アジア部門 (第一)

高見澤 磨 教授
安富 歩 教授
黒田 明伸 教授
真鍋 祐子 教授
平勢 隆郎 教授
小寺 敦 准教授

新世代アジア部門

菅 豊 教授
佐藤 仁 准教授
園田 茂人 教授(兼)

事務局

事務長
武田 達明
副事務長(総務チームリーダー)
高橋 博行
主査(図書チームリーダー)
三浦 圭子

図書チーム(資料受入担当)

係長
須永 雅子
主任
菅原 英子
事務補佐員
川崎 潤子
事務補佐員
近藤 恭子

東アジア部門 (第二)

丘山 新 教授(兼)
ブルチャー ミハエル
フランク 特任准教授(兼)
尾崎 文昭 教授
大木 康 教授
小川 裕充 教授
板倉 聖哲 准教授

国際学術交流室

チャード ロバート
ローレンス 准教授
大野 公賀 特任准教授

総務チーム(総務担当)

係長
齊藤 泰徳
係員
杉森美和子
事務補佐員
花坂さえ子
技術補佐員
新 雅史
技術補佐員
藤岡 洋

図書チーム(整理・サービス担当)

係長
山口 香織
専門職員
大川 直子
係員
大堀明日香
特任専門職員
山口 明子
事務補佐員
中山真由美

附属東洋学研究情報センター

センター長
羽田 正 教授
榊屋 友子 教授(兼)
板倉 聖哲 准教授(兼)
丘山 新 教授
廣田 輝直 准教授
名和 克郎 准教授(兼)
園田 茂人 教授(兼)
松田 康博 准教授(兼)

総務チーム(会計担当)

係長
村上 靖朋
主任
滝井 洋一
主任
荻荘 美穂
事務補佐員
宮崎 法

事務補佐員
西山真由美

事務補佐員
西村 直子

南アジア部門

加納 啓良 教授
高橋 昭雄 教授
古井 龍介 准教授
永ノ尾信悟 教授
馬場 紀寿 准教授

画像技術室

技術専門職員
野久保雅嗣

名誉教授

	称号授与
中根 千枝	1987. 5
尾上 兼英	1988. 5
山崎 利男	1990. 5
板垣 雄三	1991. 5
池田 温	1992. 5
山田 三郎	1992. 5
田仲 一成	1993. 5
友杉 孝	1993. 5
松丸 道雄	1995. 5
松谷 敏雄	1997. 5
蜂屋 邦夫	1999. 5
岡本 サ工	2001. 5
後藤 明	2002. 5
濱下 武志	2004. 5
猪口 孝	2005. 5
柳澤 悠	2005. 5
原 洋之介	2006. 5
関本 照夫	2010. 6
中里 成章	2010. 6
宮嶋 博史	2010. 6

歴代事務長

	在職期間
山高 力三	1941.11.27-42. 9.30
根本 喜蔵	1942.10. 1-44. 7. 9
長内太郎吉	1944. 7.10-54. 7.15
工藤松之助	1954. 7.16-63.10.31
宮本 健	1963.11. 1-69. 2.28
新井 康次	1969. 3. 1-74. 3.31
斎藤 益	1974. 4. 1-77. 6.30
三浦 皓守	1977. 7. 1-81. 3.31
伊東秀三郎	1981. 4. 1-83. 3.31
岡部 藤男	1983. 4. 1-86. 3.31
木内 義一	1986. 4. 1-90. 3.31
江澤 兵治	1990. 4. 1-92. 6. 1
石川 純男	1992. 6. 1-95. 3.31
千葉 勝志	1995. 4. 1-97. 3.31
小林 邦男	1997. 4. 1-99. 3.31
石井 金夫	1999. 4. 1-2001.3.31
柿沼 肇	2001. 4. 1-2004.3.31
小川 勝美	2004. 4. 1-2006.9.30
佐沼 繁治	2006.10. 1-2009.3.31
武田 達明	2009. 4. 1- 現在

教職員の異動

特任准教授 大野 公賀 2010 (平成 22) 年 10 月 1 日採用
助教 松田 訓典 2011 (平成 23) 年 3 月 31 日任期満了退職
准教授 森本 一夫 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転出
教授 真鍋 祐子 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転入
専門員 (総務チームリーダー) 渡邊雅夫 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転出
係長 (会計担当) 高橋紀之 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転出
一般職員 (総務担当) 守 幸代 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転出
一般職員 (整理・サービス担当) 安食優子 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転出
副事務長 (総務チームリーダー) 高橋博行 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転入
係長 (会計担当) 村上靖朋 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転入
一般職員 (総務担当) 杉森美和子 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日転入
一般職員 (整理・サービス担当) 大堀明日香 2011 (平成 23) 年 4 月 1 日採用

財 政 (2010 年度)

1. 財政

2010 年度			
収入 (千円)		支出 (千円)	
大学運営費	167,463	教育研究経費	36,389
間接経費	12,726	一般管理費	4,157
科学研究費	113,920	物件費	90,607
受託研究・受託事業	5,426	旅 費	83,552
その他補助金	9,902	賃金・謝金等	52,070
寄附金	5,980	翌年度繰越	123,110
前年度からの繰入	74,468		
合 計	389,885	合 計	389,885

2. 科学研究費

2010 年度		
研究種目	交付決定額 (千円)	件数
新学術領域	11,700	2
基盤研究 S	31,980	2
基盤研究 A	27,170	2
基盤研究 B	40,430	9
基盤研究 C	4,420	3
若手研究 B	4,810	4
研究活動スタート支援	3,146	2
特別研究員奨励費	14,007	18
研究成果公開促進費	5,500	1
合 計	143,163	43

3. その他の経費

三菱財団助成金

トヨタ財団研究助成金

「親鸞ルネサンス」支援寄附金

旭硝子財団・ステップアップ助成

アジア・アフリカ学術基盤形成事業

日本関連在外資料調査研究事業

施 設

1941 年 11 月	東京帝国大学附属図書館内に新設	1984 年 3 月	全面改修工事完成
1948 年 9 月	文京区大塚町 56 旧東方文化学院建物に移転。附属図書館内に分室をおく 敷地面積 720 m ² 本館建物面積 6,612 m ²	2006 年 2 月	研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明 同年 7 月以降 研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施
1965 年 10 月	本郷構内新庁舎第 1 期工事完成により一部移転	2007 年 8 月	研究所建物耐震補強・改修工事開始
1968 年 7 月	本郷構内新庁舎に全面移転完了	2008 年 3 月	工事完了
1982 年 3 月	総合研究資料館と交換分合し、全館を使用 建物面積 6,577 m ²	5 月	仮移転先からの再移転を開始
		9 月	再移転完了

【主要所蔵図書】

[大木文庫]

本研究所創設時に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。公牘類の数百部は本文庫の柱梁をなし、法律関係の貴重書をはじめ、明清以後の時期の研究には不可欠の蒐集資料である。1959 年に『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』が編纂され、刊行された。

[帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書]

1944 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

[東方文化学院旧図書]

1929 年に、東方文化に関する研究機関として、外務省所管の東方文化学院東京研究所が創設されたが、1948 年に廃された。その旧蔵書と和漢洋書あわせて 103,587 冊が、1967 年 3 月に本研究所に移管された。漢籍の中核は、1929 年に中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書である。

[松本忠雄氏旧蔵書]

1949 年度科学研究費により松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。とくに近代中国研究資料として重要なものがある。

[雙紅堂文庫]

1951・53 両年度科学研究費により、長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類である。1961 年 1 月、本研究所創立 20 年にあたり、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

[清野文庫]

1952・53 両年度科学研究費により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする。1978 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。

[矢吹慶輝氏旧蔵書]

1952 年度科学研究費により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英仏独のマニ教の文献を中心とし、仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

[下中文庫]

下中弥三郎氏より、1953 年 1 月から 1957 年 6 月までの、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊の寄贈を受けた。

とくに中国書は、当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅している。

[東京銀行調査部旧蔵資料]

1959・60 両年度にわたり、東京銀行調査部所蔵の経済関係書を主とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

[仁井田文庫]

本研究所名誉教授仁井田陞氏の逝去（1966 年 6 月）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。大木文庫とともに旧中国の社会研究に重要なものである。1999 年 3 月に『東洋学文献センター叢刊 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 附和洋書』を刊行した。また清代公私文書類も「東京大学東洋文化研究所 仁井田陞博士蒐集中国文書目録（稿）」として整理した。

[我妻文庫]

我妻栄氏の逝去（1973 年 10 月）後、所蔵の和洋法学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所はとくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。1982 年 3 月に『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』を刊行した。

[倉石文庫]

1975 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、1981 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点、現代中国書 2,300 冊、および和洋書 3,400 冊を購入した。

[江上文庫]

1981・82・84 各年度にわたり、本学名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書の一部約 2,550 点を購入した。

[Daiber Collection I, II]

1986・87・94 年度にわたり、東洋学文献センターと協力し、ハンス・ダイバー氏の蒐集した計 487 点の写本を購入した。イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。1988/96 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection I/II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber を刊行した。

[文淵閣四庫全書影印本]

1988 年度に文淵閣本四庫全書影印本（索引つき）全 1,501 冊を購入した。清代以前の中国の古典文献を網

羅した最も基本的な叢書で、中国研究上不可欠の重要性をもっている。

[\[オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報\]](#)

1989年度に、マイクロフィッシュ化された資料一式を購入した。前者はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850年～1921年）の索引書数百巻分を網羅し、後者はインドネシアのオランダ植民地政府が1928年～1939年に公布した官報の集成である。

[\[乾隆版大蔵経\]](#)

1990年度に全724函（毎函10冊）、大清三蔵聖教目録一函（5冊）を購入した。中国最後の木版大蔵経で、1,657部の仏教典籍が収録されている。漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみで、きわめて貴重な資料である。

[\[Ouseley Collection\]](#)

イギリスの外交官で東洋学者のG. Ouseley 卿（1770～1844）の旧蔵書の一部。17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記とペルシア文学作品を主とした60点、全106冊からなる。Ouseley 自身の書き込みが随所に見られる点など、資料的価値が高い。

[\[Müteferrika Collection\]](#)

1727年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍17点。イスラム世界における最早期の刊本。

[\[南アジア伝導教団資料集成\]](#)

南アジア各地で伝導活動を行ったキリスト教団の、18世紀末から20世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等を含んだマイクロフィッシュ資料である。

[\[Indonesian Monographs, 1945—1973\]](#)

オランダの王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した、独立後インドネシアの社会科学関係出版物3,258点をマイクロフィッシュにまとめたもの。内容はきわめて多彩で、インドネシア現代史の研究に不可欠の資料集である。

[\[今堀文庫\]](#)

広島大学名誉教授今堀誠二氏の逝去（1992年10月）後、所蔵の漢籍300点、中国書2,000冊、文書資料500点を購入した。近現代中国の社会史資料、華僑史資料など多くの原資料を含む。（1994年度一般設備費）

[\[東アジア宗族社会史関係資料\]](#)

東アジア全域にわたる宗族社会史の比較研究に重要な資料集。朝鮮族譜集成494冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料2,263冊からなる。

族譜、社会、華人史の基本資料として貴重な資料である。（1995年度一般設備費）

[\[中国西北文献叢書\]](#)

陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆などの中国西北地方に関する、歴史、地理、民俗、文学そのほかの諸分野の基本文献を網羅した叢書。（1995年度一般設備費）

[\[オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション\]](#)

トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類、定期刊行物。19世紀初頭オスマン帝国時代の国家年鑑や、西アジア各地方およびバルカンに関する公的な年鑑など、政治、社会、経済から文化にいたる広汎な分野を網羅し、近現代の西アジア研究者にとって類例の少ない貴重な資料群である。（1996年度一般設備費）

[\[西アジア関連写本集成\]](#)

ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語を中心としたマイクロフィッシュによる写本集成。クルアーン学から、法学、文学、自然科学、歴史学、宗教諸学を含むイスラームを中心とした西アジアの思想・文化・歴史の研究に不可欠の資料である。（1996年度一般設備費）

[\[中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料\]](#)

1997年度に標記档案資料のマイクロフィルムを購入した。内容は「宮中硃批奏摺財政類」「軍機処録副奏摺全国水利雨水自然災害資料」「内閣京察冊」「宮中履歴片」「戸部一度支部棒銀米冊」「琿春副都統衛門档案」「刑法部胎谷案」「吏部造送封贈姓氏冊」「清代琉球档案史料」である。これらは総数一千万件におよぶ中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部を成すものであり、清代中国の政治・制度・経済・社会の分析において極めて重要な第一次資料である。（1997年度一般設備費）

[\[夕嵐草堂文庫\]](#)

本学名誉教授前野直彬氏の逝去（1998年1月）後、小説類に特色を持つ所蔵の漢籍約500点4,400冊を購入し、「夕嵐草堂文庫」と名付けた。中に貴重な版本を含んでいる（1998年度リーダーシップ支援経費）。2003年3月に『東洋学研究情報センター叢刊2 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録』（山之内正彦編）を刊行した。

[\[伊藤文庫\]](#)

京都大学名誉教授故伊藤義教氏の古代・中世イラン関係旧蔵書849冊。古代・中世イラン語テキスト類を中心としている。『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤

義教文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2004・2009年）が刊行されている。

[田中則雄氏旧蔵書]

田中則雄氏が収集したインドネシアに関するオランダ語を中心とする洋書文献コレクション。『東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2002年）が刊行されている。

[安田文庫旧蔵『論語』コレクション]

昭和戦前期における古文書・古籍のコレクションとして名高い「安田文庫」旧蔵の『論語』各種和刻本9点ほか2点を、収集者安田善二郎（二代目）氏の直孫である安田弘氏から寄贈されたもの。なかでも正平版『論語』（単跋早印本，室町時代，15世紀前半の刊本）は、日本で仏教経典以外では最初の木版印刷の書籍であるとともに、六朝時期における『論語』の姿を伝えるテキストとして、今日でもきわめて珍重されているものである。

[上村文庫]

マハーバーラタの日本語全訳など、古典サンスクリット詩学に関する研究で多大な成果をあげられた東洋文化研究所故上村勝彦教授の旧蔵書で、古典サンスクリット文学・詩学、インドの古典学問、宗教・哲学に関する文献を主体とする658点のサンスクリット語典籍である。

[タイ語文献コレクション]

友杉孝本学名誉教授からご寄贈いただいた文献2,185点を基礎に、2,728冊のタイ語文献から構成されている。東南アジア歴史・地理を中心にした貴重な資料で

【主要所蔵資料】

[殷代甲骨]

本研究所蔵甲骨は、次の三部分からなる。第一は、故河井仙郎氏旧蔵の1,708片で、1979年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧蔵の393片で、1979年に購入した。第三は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された2片である。合計2,103片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋文化研究所報告1983年）として刊行された。

ある。

[荒木文庫]

我国の波斯（ペルシア）語研究の先駆者である荒木茂氏が財団法人啓明会の補助を受け、1922年から1931年にかけて収集された波斯（ペルシア）関係の辞典、紀行、歴史、言語、美術等に関する洋書938点1,112冊である。『東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2007年）が刊行されている。

[両紅軒文庫]

伊藤漱平・東京大学文学部元教授の旧蔵書。明末清初の文人李漁の諸作品及び清代の小説『紅樓夢』を中心に、作品の版本・研究書・翻訳を網羅している。天下の孤本である『嬌紅記』（鄭雲竹刊本）、『紅樓夢』最初期の印本である「程甲本」などを含む。

[滝川勉文庫]

滝川勉・筑波大学農林学系および日本大学農獣医学部元教授の旧蔵書。フィリピンを中心に東南アジア各国の経済、政治、社会、歴史、文化に関する多数の研究書と資料を網羅している。『東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2010）が刊行された。

[山崎文庫]

本研究所の山崎利男名誉教授からご寄贈いただいたものである。約490点。主にインド古代史とインド法制史の文献からなり、近代史関係も含まれている。W. ジョーンズによる『マヌ法典』の翻訳など稀覯書もみられる。言語は英語、サンスクリット、マラーティー、ベンガリーなどである。

[中国古銭・錢范]

旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約1,250点の古銭と、10点の銭の范模を含む。

[中国考古資料]

上記の甲骨、古銭以外に、瓦当約110点、鏡、戈、戟、鏹などの青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

[中国絵画資料（原版・焼付写真・カラスライド・デジタル画像等）]

米国、カナダ、欧州、アジアの美術館、個人蒐集家が所蔵する中国絵画、および日本現存の中国絵画に関するものが主体で、その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した台北故宮博物院所蔵中国美術作品の焼付写真、東京国立文化財研究所原版からの羅漢・十王国の焼付写真等があり、現在約 20 万点にのぼる。「東洋学文献センター叢刊」として 10 冊の目録が 1977～83 年、1992 年～98 年の両度にわたって刊行され、図録は東京大学出版会より『中国絵画総合図録』（全 5 巻）が 1982 年～83 年、『同 続編』（全 4 巻）が 1998 年～2001 年の両度にわたって刊行された。現在、第三次世界調査を実施中である。

[中国清代・民国期の文書資料]

17 世紀から 20 世紀におよぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、宝応、鳳山などの土地文書を中心とし、その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は、1983 年～86 年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（閲覧準

備中。）

[内蒙古出土学術資料]

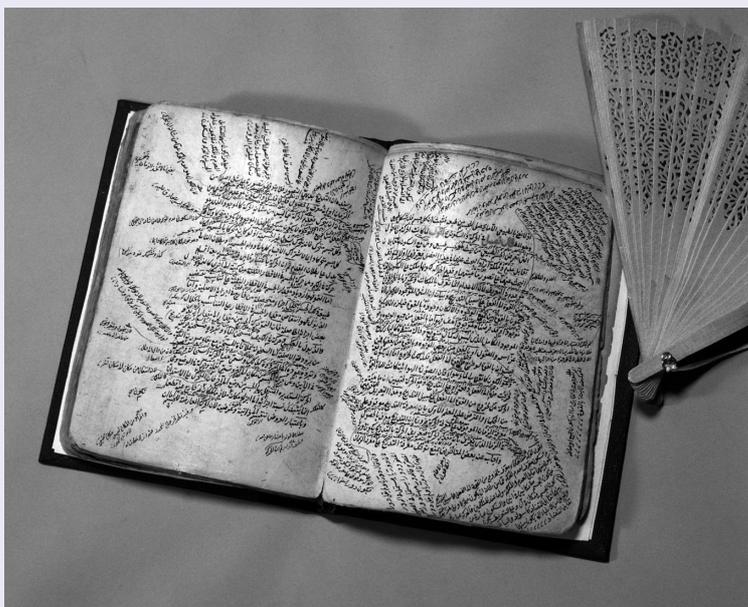
江上波夫名誉教授が戦前に内蒙古で発掘・採集した資料約 1 万点が、1983 年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが、圧倒的多数は未発表のものである。

[インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリーおよびインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で、写真、実測図などが主なものである。1959 年～62 年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第 1 巻（1967）、第 2 巻（1969）、第 3 巻（1970）が刊行された。

[西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として、1956 年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡 14 か所を発掘・調査した結果、収集したものの数は数万点に達し、大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。1958 年から 1984 年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20 冊が刊行されている。



13 世紀の哲学者アブハリイの著したギリシア的哲学（ファルサファ）の概論書『哲学の導き』についての 14 世紀注解書の写本。

【交流協定】

【香港大学アジア研究センター】

1995年10月、東京大学の海外学術研究拠点を強化する一環として、本研究所は香港大学アジア研究センターと交流協定を結び、2000年10月、2005年10月にそれぞれ5年延長の更新をした。協定の内容は(1)共同研究の推進、(2)研究者の交流、(3)資料・研究情報の交換の三項からなった。Wong Siu-lun センター長の講演会開催などさまざまな研究交流を行い2010年終了した。

【中国・復旦大学】

東京大学と復旦大学との間における学術交流協定は、1991年10月に結ばれた。この協定の運用は、東京大学では、当初理学部が担当部局であったが、1996年に更新期限となり、その後東洋文化研究所が担当することとなった。2006年に再更新している。交流の内容は、両校間における(1)教員、研究者、院生、学生の交流、(2)共同研究の計画と実施、(3)講義とセミナーの実施、(4)学術情報および学術刊行物の交換、などである。

【シンガポール国立大学人文・社会科学部】

1997年4月にシンガポール国立大学人文・社会科学部社会学科と結んだ学術交流協定を2000年1月に同学部との5ヵ年間の協定に改定し、2005年1月に更新した。研究者の交流と研究資料の相互交換を主な目的とするこの協定は、当研究所の先端地域研究プログラム「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」を効果的に推進するうえでも、重要な役割を果たすものと位置づけられてきた。しかしこれに加えて2006年1月には、東洋文化研究所が担当部局となり、東京大学とシンガポール国立大学との大学間協定が締結されたためにこの部局間協定は2010年1月で終了した。

【ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部】

2005年8月にブルネイにおける唯一の大学で、国立の総合大学でもあるブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とする部局間交流協定を締結し、2010年8月にさらに5年間の更新を行った。この間、2006年に先方で、2008年に東洋文化研究所で東南アジアの文化・社会・言語などに関する共同シンポジウムを開催し交流を深めた。東南アジア研究コースをもつ先方では同分野での対外交流の継続を望んでおり、東洋文化研究所としてもブルネイとの交流を通じて東南アジア地域の文化・歴史・社会についての知見を拡大できるので、今後も交流を深めたいと考えている。

【フランス高等研究院】

2005年5月に、本研究所と東京大学史料編纂所が共

同で、フランス高等研究院（パリ）と5年間の学術交流協定を締結し、2010年にはこの協定がさらに5年間延長された。フランス高等研究院は、19世紀後半に設立された大学院大学で、フランスにおける歴史学・宗教学・言語学などのいわゆる人文学研究の拠点である。この協定は、2002年（パリ）と2004年（東京）に開催された「日仏コローク」をうけて締結されたもので、研究者の交流、共同研究の実施、資料・情報の交換などの実質的な研究協力がさらに進むことが期待される。

【カルカッタ大学歴史学部】

本交流協定は2006年1月にコルカタで調印された。インド東部の中心的な大学であるカルカッタ大学が創立150年を迎えるのを機会に、日本における南アジア研究のセンターの一つである東洋文化研究所との交流を深めることを企図して始まった。カルカッタ大学でのセミナーの開催、カルカッタ大学教授の東京への招聘などを通して、南アジア世界、とくにベンガル、アッサム、オリッサ、東部諸州などの地域の宗教・文化・歴史・社会に関して有意義な学術交流に成功し、2011年1月に締結した。

【ベトナム・タイグエン大学経済経営学部】

2006年1月にタイグエン大学経済経営学部と5年間の学術交流協定を結んだ。タイグエン大学はベトナム中部高原にあり、ラオス・カンボジアとの国境に接し、多くの少数民族が暮らし、また世界第2位のコーヒー輸出国であるベトナムの主要産地である。この地域は東南アジア研究のフロンティアのひとつであり、経済・文化・環境などの分野で共同研究を行い、2011年1月に締結した。

【台湾・中央研究院】

本交流協定は、2010年2月に台北で調印された。中央研究院側のパートナーが社会学研究所と人文社会科学センター付属アジア太平洋地域研究センターの2か所という、少々変則的な形での協定となった。交流内容は、(1)教員及び研究者の交流、(2)共同研究の実施、(3)講義・講演・シンポジウムの実施、(4)学術情報及び資料の交換である。調印式の後、第1回若手社会学者共同ワークショップが1日半の日程で実施され、1年後の2011年2月には、今度は東京で第2回の共同ワークショップが実施された。2010年度に採択された日本学術振興会アジアアフリカ学術基盤形成事業「アジア比較社会研究のフロンティア」では台湾拠点機関となるなど、実質的な共同作業が着実に積み上がっている。

【刊行物一覧】

東洋文化研究所刊行物（2009・2010年度）

東洋文化研究所紀要

●第156冊（2009年12月）

小寺敦 先秦秦漢の傳世文獻にみえる「讓」について
——先秦儒家系文獻を軸として——

倉本尚徳 北齊臨淮王像碑の試譯と初歩的考察

黃仕忠 天理圖書館所藏中國古代戲曲目錄

加藤雄三 「接收台灣司法」小考

池田一人 ビルマ植民地期末期における仏教徒カレンの歴史叙述——『カイン王統史』と『クウイン御年代記』の主張と論理——

田中公明 判読困難なサンスクリット写本を、いかに修補するか？——Nāgabodhiの『安立次第論』第1章に見るテキスト復元——

Kei KATAOKA A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: — The Buddhist Refutation of Kumāriḷa's Criticism of *Apoha* —

●第157冊（2010年3月）

小寺敦 上海博楚簡『鄭子家喪』譯注——附・史的性格に關する小考——

高遠拓児 清代秋審文書と「蒙古」——十八世紀後半～二十世紀初頭の蒙古死刑事案處理について——

加藤博 エジプト農村における「家族」（アーイラ）——19世紀中葉オアシス村落に關する住民登録文書に基づいて——

宮脇聡史 フィリピン・カトリック教会の公文書に見られるフィリピン史解釈

谷垣真理子 カナダへの香港人移民

衣川賢次 『祖堂集』異文別字校證——『祖堂集』中の音韻資料——

●第158冊（2010年12月）

大木康 冒襲における杜詩

衣川賢次 徳山と臨濟

青木健 ソロアスター教ズルヴァーン主義研究1——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

Kei KATAOKA A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*: Jayanta's View on *jāti* and *apoha*

加納啓良 東南アジア・プランテーション産業の脱植民地化と新展開——インドネシアとマレーシアのアブラヤシを中心に——

呂静 秦代における行政文書の管理に關する考察——里耶秦牘の性格をめぐって——

●第159冊（2011年3月）

伊藤徳也 啓蒙主義的現代儒家、かつ中国式頹廢派——周作人における「凡人」と「生活の芸術」——

栗田禎子 アリー・アブド・アッ・ラティーフの生涯——スーダン「一九二四年革命」の社会的背景分析のための素材として（上）

青木健 初期イスラーム神学ムッタズィラ派研究2——『ウラマー・イエ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳——

鈴木恵美 削除された歴史——エジプト農地改革における地主議員——

加藤博・岩崎えり奈 エジプト農村の世帯・家族構造

小泉順子 タイ＝アメリカ教育交換協定に關する一考察——冷戦初期アメリカの文化外交戦略と対タイ教育交流——

等々力政彦 烏里雅蘇台志略にみえる、最古の可能性のあるトゥバ語語彙について

富樫智 内モンゴル阿拉善砂漠における住民参加型砂漠化防止の研究と実践

鹿嶋英 中国における行政手続規定違反の効果をめぐって

外川昌彦 ガンディーと共に暮らす——1930年代の日印関係と藤井日蓮のインド体験——

東洋文化

●第90号（2010年3月）

特集 魂の脱植民地化（2）——「共同体」概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学——

安富歩 はじめに

第1部 魂の遍歴

深尾葉子 魂の脱植民地化理論の新展開

別府春海 魂の化石化・植民地化・再植民地化・二重植民地化・脱植民地化

遠藤誉 魂の遍歴——中国「未完の革命」の狭間で——

柴田有三 ハラスメントの罫からの離脱過程の数量分析

深尾葉子 『ハウルの動く城』に見る魂の脱植民地化過程

第2部 中国社会の魂の脱植民地化

翟学伟 “关系” 研究的脱殖民地化与理论重构

安富歩 マルサス人口論の呪縛——孫文の中国革命プログラムとの関係を中心に——

海部岳裕 梁漱溟の理

第3部 呪縛と創発の諸側面

葛城政明 経済学の呪縛

YASUTOMI Ayumu Decolonisation of the Soul : The Wisdom and Courage of Confucius and Gandhi

Ursula Weiss Murakami Haruki's Short Story as an Example for Colonization and Decolonization of the Soul — *The Kidney-Shaped Stone That Moves Every Day* —

等々力政彦 トゥバの古地図が意味するもの——遊牧民の世界認識——

●第91号 (2011年3月)

特集 オスマン帝国史の諸問題

鈴木董 序文

第1部 世界秩序と国際関係

堀井優 16世紀オスマン帝国の条約体制の規範構造—ドゥプロヴニク、ヴェネツィア、フランスの場合—

鴨野洋一郎 15—16世紀におけるフィレンツェ・オスマン関係と貿易枠組み

澤井一彰 16世紀後半のオスマン朝における飢饉と食糧不足

黛秋津 オスマン帝国における中心=周辺関係の変容に関する一研究—18世紀後半のワラキア・モルドヴァとの宗主・付庸関係—

第2部 前近代のオスマン帝国

高松洋一 オスマン朝ハットゥ・ヒュマーユーンについての—考察—切り取られたハットゥ・ヒュマーユーンの検討を中心に—

齋藤久美子 租税台帳に見るアナトリア南東部の人口構成

松尾有理子 オスマン朝におけるマドラサ制度の発展—16世紀後半～17世紀前半のバルカンの事例を中心に—

第3部 「西洋化」改革から共和国へ

鈴木董 バシャたちの変容—比較史から見た最末期オスマン朝の支配エリートの若干の特質

秋葉淳 タンズィマート初期改革の修正—郡行政をめぐる政策決定過程 (1841-42年)

長谷部圭彦 タンズィマート初期における対キリスト教徒教育管理構想

上野雅由樹 タンズィマート期アルメニア共同体の再編—ミレット憲法後のイスタンブル総主教座を中心に—

小笠原弘幸 トルコ共和国公定歴史学における「過去」の再構成—高校教科書『歴史』(1931年刊)の位置づけ

International Journal of Asian Studies

第6巻第2号 (2009年7月)

PETER KORNICKI AND NGUYỄN THỊ OANH The Lesser Learning for Women and Other Texts for Vietnamese Women : A Bibliographical and Comparative Study

DARIA BERG Cultural Discourse on Xue Susu, a Courtesan in Late Ming China

State of the field

NIV HORESH The Pendulum Swings Again : Recent Debates on China's Prewar Economy

Review article

ATSUSHI KOTERA *Great Wall?* : Overcoming the Boundary Between Euro-American and Sino-Japanese Sinologies

第7巻第1号 (2010年1月)

STEFAN HALIKOWSKI SMITH No Obvious Home : the Flight of the Portuguese "Tribe" from Makassar to Ayutthaya and Cambodia During the 1660s

YOSHIKO NAGANO The Philippine Currency System During the American Colonial Period : Transformation from the Gold Exchange Standard to the Dollar Exchange Standard

State of the field

VIJAYA RAMASWAMY Perspectives on Women and Work in Pre-Colonial South India

Review article

SELÇUK ESENBEL Pan-Asianism and Its Discontents

第7巻第2号 (2010年7月)

RYOICHI YASUKUNI Regional versus Standardized Coinage in Early Modern Japan : The Tokugawa *Kan'ei Tsūhō* 寛永通宝 Translated by Gaynor Sekimori

LEONG YEW Managing Plurality : The Politics of the Periphery in Early Cold War Singapore

XAVIER PAULÈS Gambling in China Reconsidered : *Fantan* in South China During the Early Twentieth Century

State of the field

CHRISTOPHER I. BECKWITH Could There Be a Korean-Japanese Linguistic Relationship Theory? Science, the Data, and the Alternatives

Review article

NORIHISA YAMASHITA A Materialist Approach to Early Modern Globality

第8巻第1号 (2011年7月)

LIANGERN ZHANG Chinese Lacquerwares from Begram: Date and Provenance

MICHAEL HOI-KIT NG Attorney on Trial: When Lawyers Met Phony Lawyers in Republican Beijing

AYANO KANO Backlash, Fight Back, and Back-Pedaling: Responses to State Feminism in Contemporary Japan

Review articles

TATSUYA NAKANISHI One Giant Leap in the Study of the Chinese Crescent: A Superb Annotated Translation of Liu Zhi's *Nature and Principle in Islam*

JAMES B. LEWIS The Wanli Emperor and Ming China's Defence of Korea against Japan

NICOLE WILLOCK Two Recent Contributions and New Horizons in Modern Tibetan History

LAMA JABB The Consciousness of the Past in the Creativity of the Present: *Modern Tibetan Literature and Social Change*

東洋文化研究所刊行物

(1995年以降全リスト) *印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

東洋文化研究所紀要別冊

50. 岡本さえ『清代禁書の研究』 1996
- * 51. 丸尾常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- * 52. 末成道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- * 53. 蜂屋邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- * 55. 平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
56. 上村勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
57. 岡本さえ『近世中国の比較思想』 2000
- * 58. 橋本秀美『義疏學衰亡史論』 2001
- * 59. 大木康『馮夢龍『山歌』の研究』 2003
60. 加納啓良『現代インドネシア経済史論』 2003
61. ティムール・ダダバエフ『マハラの画像』 2006
- * 62. 小寺敦『先秦家族關係史料の新研究』 2008
63. 大木康『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』 2010

64. 松井康『西南アジアの砂漠文化：生業のエートスから争乱の現在へ』 2011

東洋文化研究所叢刊

- * 15. 平勢隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- * 16. 蜂屋邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- * 17. 羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- * 18. 平勢隆郎『中國古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996
- * 19. Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, eds., *Values and Life Styles in Urban Asia: A Cross-Cultural Analysis and Sourcebook* 2005
- * 20. 大田省一・井上直美(編)『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』 2005
21. 羽田正(編)『ユーラシアにおける文化の交流と転変』 2007
- * 22. Masashi Haneda ed., *Asian Port Cities 1600-1800: Local and Foreign Cultural Interactions* 2009
- * 23. Shingo Einoo ed., *Genesis and Development of Tantrism* 2009
- * 24. 安富歩『黄土高原・緑を紡ぎだす人々：「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り』 2010
- * 25. 松井健『グローバル化と〈生きる世界〉：生業からみた人類学的現在』 2011

東アジア部門美術研究分野報告

『中國繪畫總合圖録 續編』

- * 第一巻 アメリカ・カナダ篇 1997
- * 第二巻 東アジア・ヨーロッパ篇 1997
- * 第三巻 日本篇 1999
- * 第四巻 総索引 2000

蔵書目録

- *『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版 1981, 1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 索引 1996

その他

- *『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- *『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1999
- * *Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century: Toward a New Framework of Asian Studies* 1996
- *『アジアを知れば世界が見える』 2001
- 『アジア学の将来像』 2003
- 『アジア学の明日にむけて』 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』第1回～第3回 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』第4回 2009
- 『東京大学東洋文化研究所編 はじめての漢籍』 2011

東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物 (1995年以降全リスト) *印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

●東洋学文献センター叢刊

- 第65輯 許舒博士所蔵 商業及び土地契約文書 乾泰隆文書(1) 潮汕地区土地契約文書 1995
- 別輯20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- 別輯21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(東アジア編) 1997
- 別輯22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯23 天津史文献目録 1998
- 別輯24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999

●東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録 2003
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録Ⅰ 明治の営業写真家 山本讃七郎写真資料目録その1 2006

- 第7輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(1) 2007
- 第9輯 *Old Maps of Tuva 1 The detailed map of the nomadic grazing patterns of total area of the Tannu-Uriankhai* 2008
- 第10輯 *Old Maps of Tuva 2 Tannu-Utiankhai Maps in Eighteenth Century China* 2009
- 第11輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(2) 2009
- 第12輯 東京大学東洋文化研究所蔵滝川勉文庫目録 2010
- 第13輯 黄土地上来了日本人—中国山西省 三光政策村的记忆— 2011

●大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクションII)目録] 1996

